

茨城県
教育
研究会

会 報

第176号

<「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の改善・充実>

特集 「本年度の事業のまとめ・県外派遣研修報告」

平成30年3月5日
 茨城県教育研究会
 代表者 小島 睦
 事務局 水戸市大場町933-1
 教育プラザいばらき内
 TEL 029-269-1300
 FAX 029-269-1304



道徳科に楽しく取り組む子供たち（常陸太田市立太田小学校）

「道徳科」の授業づくりを通して



茨城県教育研究会 副会長

石川 八千代

太田小学校は、常陸太田市の中心部に位置し、一四五年の歴史と伝統のある学校です。「安全・安心な学校づくり」「明日が待たれる学校づくり」を学校経営の大きな柱とし、心の教育を基盤とした教育活動の充実に努めています。

新学習指導要領の全面実施に伴い、次年度から「特別の教科 道徳」が実施されることになりました。本校では、本年度と次年度の二か年にわたって、茨城県教育研修センターの教職に関する研究に係る研究協力校として、「道徳科」における授業づくりについて研修を進めています。

今までの「道徳の時間」は、読み物教材の登場人物の心情を理解させることに偏っていたと言われています。これからは、「読む道徳」から「考え、議論する道徳」への転換が求められています。

本校では、役割演技等の体験的な学習を取り入れながら、子供たちが様々な課題を自分事として捉

えられるように授業展開を工夫しています。また、問題解決的な学習を通して、子供たちが課題に対し多面的・多角的に考え判断し、自分とは異なる意見について議論し合うことで、納得できる解を見つけられるように、丁寧に授業を進めています。

一方授業に向けた指導案の立案から授業後の研究協議においては、小学校のよさを生かして、低・中・高ブロックで進めています。当初、グループでの指導案の共同立案等に「授業者以外の教師が、自分事として考え、意見を出し合うことができるだろうか。」と、不安を抱いていました。しかし、本校の職員は、子供たちの実態から学びに至る事実について、教員としての経験知や年齢に関係なく、活発に議論を交わし自分事として研究協議を深めています。そこには、正しく「同僚性」が発揮され、学ぶ教師の姿が見られています。



第69回 茨城県教育振興大会

(茨城県学校長会結成70周年 並びに
教育センター設立50周年 記念式典)

- 教育論文の発表
- 永年勤続教育功労者の紹介
- 教育論文優秀者の表彰
- 大会宣言決議
- 講演会

大会宣言

茨城県学校長会と茨城県教育研究会は、本県教育の充実・発展のため、永年にわたり互いに連携しながら、研究と実践を重ね、その成果を上げてきた。

教育を取り巻く環境が大きく変化している今日、東日本大震災等の教訓を生かし、かけがえのない自他の命を大切にすることを基盤として、生きる力である「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」をより一層育むことが、我々には求められている。

このときに当たり、我々は、社会の要請や家庭・地域の願いを踏まえながら、自らの使命を強く自覚し、創意と活力に満ちた学校づくりを推進して、教育の目的を実現しなければならぬ。

本県学校長会と教育研究

会は、これまでの取組の成果と課題を明確にし、常に改善を図りながら、一人一人が輝き、自立する子供の育成に情熱を注ぎ、県民の信頼と期待に応えていく決意である。

ここに、第六十九回茨城県教育振興大会開催に当たり、次の事項に全力を尽くすことを宣言する。

記

- 一 子供の安全・安心を確保する。
- 一 学ぶ意欲を育む。
- 一 思いやりと感謝の心を育み、健やかな体を育てる。
- 一 創意ある教育活動を展開する。
- 一 信頼と期待に応える教職員を目指す。

平成三十年一月三十日

茨城県学校長会
茨城県教育研究会

本県教育の未来を見据えて

茨城県学校長会
茨城県教育研究会
会長 小島 睦

この第六十九回大会は、茨城県学校長会結成七十周年並びに教育センター設立五十周年の記念式典ともなっており、改めて本県教育のこれまでの歩みを振り返り、成果を共有するとともに、これから先の教育の在り方について考えることができるような大会となるよう準備を進めてまいりました。

このたび、永年にわたり本県教育、茨城県学校長会、茨城県教育センターの充実・発展に寄与され感謝状を受けられます皆様には、敬意と感謝を申し上げます。

現在、県学校長会では「第二期中期教育ビジョン」の最終年度となる平成三十年度に向けて、この二年間の取り組みを振り返り、ビジョン当初の計画に対する達成状況を確認しつつ、成果や残された課題を整理し、具体的な活動目標を定めているところです。勤務時間の適正化に向けた県教育委員会との共同研究のように、県教育委員会の皆様には、様々なご支援をいただいてまいりましたが、複雑化・多様化する学校の課題を考えますと、今後もお互いの情報共有、連携が求められていくものと考えています。

また、県教育研究会では、会員の皆様が大変忙しい毎日を送る中で、新学習指導要領に基づく教育課程の編成、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善等に対し、質の高い研究に取り組んでおられます。教育に対する県民の大きな期待、社会の要請に、教職員が力を合わせて応えるためには、会としての活動内容、組織編成などについて、更なる検討が課題となっています。

教育の充実には、まずは、子供たちの前に立つ教職員が元氣な姿を見せていくことが必要です。私たちは、教職員としての仕事に魅力を感じながら、日々の教育活動に当たっています。しかしそれだけでなく、私たちの仕事は、学校の外からも「魅力あるもの」として見てもらえているのかについても考えなければならぬと思います。子供たちにとってあこがれとなっているのか、学生が心を魅かれるような「魅せる仕事」になっているのか、職場の雰囲気や仕事の仕方について、見直していく必要があるように思います。

節目となる本大会を機に、本県教育の未来を見据えた様々な議論が、一層深まっていくことを期待しています。

一 研究の進め方
 業務の効率化や組織の活性化を推進し、研究目標の具現化に努める。
 本部主催事業、研究部及び専門委員会

二 研究の進め方
 業務の効率化や組織の活性化を推進し、研究目標の具現化に努める。
 本部主催事業、研究部及び専門委員会

三 創意ある教育活動を展開する。
 学校が家庭・地域社会と連携・協働しながら教育活動を展開し、学校内外を通じて子供の生活の充実と活性化を図る研究に努める。

四 道徳科を要とした道徳教育及び体育・健康に関する指導等を充実させ、豊かな心や人間性、健やかな体を育むための研究に努める。

五 思いやりと感謝の心を育み、健やかな体を育てる。

六 「何が出来るようになるのか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」という学びの質を重視した授業改善を図りながら、学ぶ意欲を育む研究に努める。

七 道徳科を要とした道徳教育及び体育・健康に関する指導等を充実させ、豊かな心や人間性、健やかな体を育むための研究に努める。

八 思いやりと感謝の心を育み、健やかな体を育てる。

九 「何が出来るようになるのか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」という学びの質を重視した授業改善を図りながら、学ぶ意欲を育む研究に努める。

十 道徳科を要とした道徳教育及び体育・健康に関する指導等を充実させ、豊かな心や人間性、健やかな体を育むための研究に努める。

一 研究の進め方
 業務の効率化や組織の活性化を推進し、研究目標の具現化に努める。
 本部主催事業、研究部及び専門委員会

二 研究の進め方
 業務の効率化や組織の活性化を推進し、研究目標の具現化に努める。
 本部主催事業、研究部及び専門委員会

三 創意ある教育活動を展開する。
 学校が家庭・地域社会と連携・協働しながら教育活動を展開し、学校内外を通じて子供の生活の充実と活性化を図る研究に努める。

四 道徳科を要とした道徳教育及び体育・健康に関する指導等を充実させ、豊かな心や人間性、健やかな体を育むための研究に努める。

五 思いやりと感謝の心を育み、健やかな体を育てる。

六 「何が出来るようになるのか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」という学びの質を重視した授業改善を図りながら、学ぶ意欲を育む研究に努める。

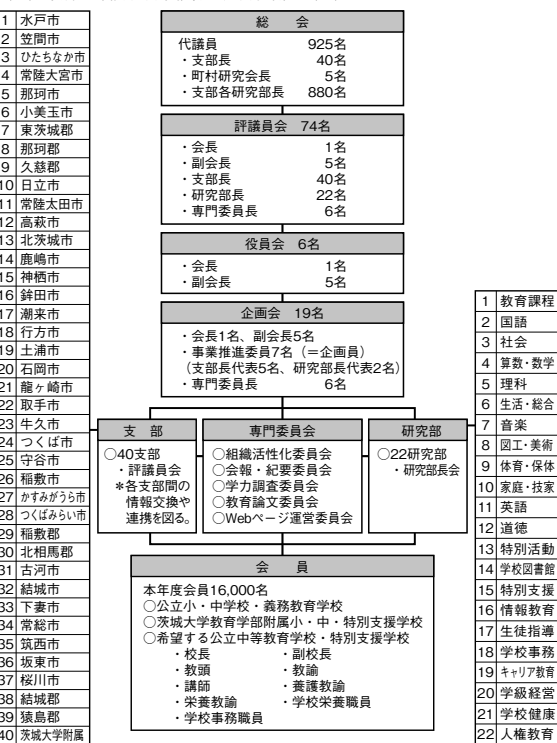
七 道徳科を要とした道徳教育及び体育・健康に関する指導等を充実させ、豊かな心や人間性、健やかな体を育むための研究に努める。

八 思いやりと感謝の心を育み、健やかな体を育てる。

九 「何が出来るようになるのか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」という学びの質を重視した授業改善を図りながら、学ぶ意欲を育む研究に努める。

十 道徳科を要とした道徳教育及び体育・健康に関する指導等を充実させ、豊かな心や人間性、健やかな体を育むための研究に努める。

(図) 平成30年度茨城県教育研究会組織図(案)



一 研究の進め方
 業務の効率化や組織の活性化を推進し、研究目標の具現化に努める。
 本部主催事業、研究部及び専門委員会

二 研究の進め方
 業務の効率化や組織の活性化を推進し、研究目標の具現化に努める。
 本部主催事業、研究部及び専門委員会

三 創意ある教育活動を展開する。
 学校が家庭・地域社会と連携・協働しながら教育活動を展開し、学校内外を通じて子供の生活の充実と活性化を図る研究に努める。

四 道徳科を要とした道徳教育及び体育・健康に関する指導等を充実させ、豊かな心や人間性、健やかな体を育むための研究に努める。

五 思いやりと感謝の心を育み、健やかな体を育てる。

六 「何が出来るようになるのか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」という学びの質を重視した授業改善を図りながら、学ぶ意欲を育む研究に努める。

七 道徳科を要とした道徳教育及び体育・健康に関する指導等を充実させ、豊かな心や人間性、健やかな体を育むための研究に努める。

八 思いやりと感謝の心を育み、健やかな体を育てる。

九 「何が出来るようになるのか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」という学びの質を重視した授業改善を図りながら、学ぶ意欲を育む研究に努める。

十 道徳科を要とした道徳教育及び体育・健康に関する指導等を充実させ、豊かな心や人間性、健やかな体を育むための研究に努める。

(表) 各研究部の重点指定年度(平成30年3月2日現在)

研究部	重点指定年度(○)										その他(関プロ等開催年)
	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	
1 教育課程	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	H33関地区中
2 国語	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	H36関地区中、H39全小社
3 社会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	H32日数教(兼関プロ)
4 算数・数学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	H30全小理
5 理科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	H31関プロ小、H38関プロ小
6 生活・総合	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	H34関プロ小中
7 音楽	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	H36関プロ小中高
8 図工・美術	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	H31関地区中、H32関地区小
9 体育・保健	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	H31関地区中
10 家庭・技家	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	H33関地区中
11 英語	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	H33関地区中
12 道徳	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	H31関地区中
13 特別活動	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	H33関地区中
14 学校図書館	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	H33関地区中
15 特別支援	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	H37関プロ小中
16 情報教育	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
17 生徒指導	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
18 学校事務	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
19 キャリア教育	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
20 学級経営	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
21 学校健康	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
22 人権教育	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
計	13	13	14	13	11	12	11	14	11	13	

* 関プロ・全国大会の開催が新たに決定した時点で追加する。同一年度3研究部まで。
 * この表は、研究部長会が把握し管理する。
 * (参考) H30関修委、H31茨城国体

(問題作成委員…五教科から百八人) 児童生徒の学力の実態を指導年度内に把握し、指導方法等の改善や補充指導を通して学力の定着を図るため「学力診断のためのテスト」を作成・実施する。
 (実施予定日) 小三(小六、平成三十一年一月十日(木) 中一・中二(平成三十一年一月十日(木) 中三(平成三十年十一月六日(火)

④教育論文委員会(各ブロック代表一人、県教育庁学校教育課 各研究部代表二人) 本県教育の発展を助長し、これを顕彰して、本県教育の振興を図るため、論文の募集と審査を行い、表彰式及び発表会を開催する。
 ⑤WEBページ運営委員会(二十一研究部から各一人) WEBページでの積極的な情報発信により、教科・領域研究部間の連携及び教職員の連携を深めるための管理・運営を行う。
 ⑥小規模校運営委員会 複式学校を有する学校並びに児童生徒数が小学校百人以下、中学校五十人以下の学校及びその他参加を希望する学校を対象として、小規模校のよきを生かした特色ある教育活動を実践するための情報交換や研修会の企画・運営を行う。

①本会が主催する会議等(ブロック対象の事業も含む)の同日複数開催を回避するために、開催期日決定においては、教育プラザのWEBページ上で重畳開催がないことを確認のうえ、開催文書を教育

プラザまで送信して決定する。(教育プラザ以外の会場での開催についても同様とする)
 ②事務局は「会議開催予定一覧(学校長会の会議開催も含む)」をWEBページ上にアップし、管理する。
 ③各支部においても、会議等の開催期日決定の際は、教育プラザの「会議開催予定一覧」を参照する。
 四 研究大会等の開催について
 (平成三十一年度) 全小理
 (平成三十年十一月八日(木)～九日(金)) 大野小
 (公開授業) 笠原小、国田義務教育、水戸市上
 (全体会等) 県民文化センター
 (生活科・総合学習)「関プロ小」
 (平成三十一年十一月八日(金)) 水戸市上
 (公開授業) 東石川小、長堀小
 (全体会等) ホテルクリスタルパレス
 (家庭・技家)「関地区中」 期日未定
 (公開授業) 県内五地
 (全体会等) 県民文化センター
 (道徳)「関地区中」
 (平成三十一年十一月八日(金)) 東海村
 (公開授業) 東海中
 (全体会等) 未定
 (算数・数学)「日数教(兼関プロ)」
 (期日)「公開授業」全体会等 未定
 (技術・家庭)「公開授業」全体会等 未定

平成 29 年度第 52 回教育論文表彰並びに発表



茨城県教育研究会主催、茨城県教育委員会後援による第五十二回教育論文表彰式が、平成三十年一月三十日(火)に開催された茨城県教育振興大会の中で、盛大に執り行われました。

第一部では、優秀賞を代表して、行方市立北浦中学校と水戸市立新荘小学校が論文発表を行いました。

第二部では、廣瀬佳久教育論文委員長による審査経過報告の後、表彰が行われました。優秀賞(五志、優良賞(二十四志、佳作(十八志)の受賞者は、以下のとおりです。

- 〔優秀賞〕
- 〔茨城県知事賞・茨城県教育研究会会長賞〕
- 1 教育課程 組織的・継続的なカリキュラム・マネジメントによる魅力ある学校づくり(プロジェクトチームを中心とした学校改善を通して) 行方市立北浦中学校 校長 横田 英一 外全職員
 - 〔茨城県議会議長賞・茨城県教育研究会会長賞〕
 - 2 社会 汎用性のある概念等に関する知識を習得するための社会科学習の指導の在り方(小学校第五学年「農業のさかんな地域」における社会的な見方・考え方を視覚化する関係図の活用を通して) 水戸市立新荘小学校 教諭 平山 栄治
 - 〔茨城県教育委員会教育長賞・茨城県教育研究会会長賞〕
 - 3 学校事務 教員の担うべき業務に専念する環境の確保を目的とした学校組織全体の業務適正化の在り方について(学校事務における情報管理マネジメント強化を通して) 牛久市立牛久第一小学校 主任 大塚 正則
 - 4 特別支援教育 小学校における一人一人の教育的ニーズに応じた支援の在り方(専任特別支援教育コーディネーターを中心とした支援体制の整備と連携に関する実践) 鹿嶋市立三笠小学校 教諭 宗次 直巳
 - 5 理科 科学的な見方・考え方を養う理科学習の在り方(問題解決の過程を意識し、思考力・表現力を充実する学習活動を通して) 鉾田市立鉾田小学校 校長 中村 裕幸 外全職員

- 〔優良賞(茨城県教育研究会会長賞)〕
- 6 その他 論理的思考力を高めるプログラミング教育の在り方(教科のねらいに迫るための二種類のプログラミング教育の実践を通して) 古河市立大和南小学校 教諭 飯田 敏夫
 - 7 外国語(外国語) 思いや考えを豊かに表現する生徒の育成(自己関連性や即興性を高める指導における学びの過程の工夫を通して) 水戸市立緑岡中学校 教諭 小林 明子
 - 8 学校健康教育 保護者との信頼関係を基盤とした安全安心な学校づくりのための養護教諭の役割(傷病者対応において保護者から寄せられた意見の分析を基に) 龍ヶ崎市立長山小学校 養護教諭 湯原 裕子
 - 9 算数・数学 空間についての理解を深め、論理的な考えを育むことができる数科学習指導の在り方(空間図形の単元における操作や観察などの活動を通して) かすみがうら市立霞ヶ浦中学校 教諭 星 篤史
 - 10 理科 主体的・対話的で深い学びの実現を目指す理科学習指導の在り方(問題解決の過程を重視した第五学年「植物の発芽」植物の成長」の学習指導を通して) 桜川市立真壁小学校 教諭 根本 尚子
 - 11 算数・数学 知識・技能を活用する力を育む算数科学習指導の在り方(小学校第五学年「割合」における次時の学習につなげる活動と課題設定の工夫を通して) 龍ヶ崎市立松葉小学校 教諭 大貫 正人
 - 12 国語 目的に応じて、文章の要旨をとらえたり、自分の考えを明確にしたがら読んだりする力を育てる国語科学習指導の在り方(小学校第六学年「新聞の投書を読み比べよう」における児童の対話的な学びを取り入れた段階的な学習活動の工夫を通して) 北茨城市立精華小学校 教諭 小野 勝
 - 13 外国語(英語) 生徒が自ら考えを表現する力を育てる学習指導の在り方(meaningful, integrated, interactionの要素を含む言語活動の実践を通して) 北茨城市立常北中学校 教諭 上遠野 幸恵
 - 14 図画工作(美術) 感じ取る力や思考する力を高めるための図画工作科学習指導の充実を目指して(対話的な学びを取り入れた鑑賞活動の工夫を通して) かすみがうら市立志筑小学校 教諭 鈴木 由美子
 - 15 算数・数学 質の高い課題と出会い、他者と関わりながら深く考える算数科の授業づくり(小学校六年生「角柱と円柱の体積」についての協働的な学びの実践から) 常陸太田市立久米小学校 教諭 佐藤 健樹
 - 16 学級経営 不登校の未然防止と初期対応の在り方(一人一人の居場所がある学級づくりと回復段階に応じた個別支援を通して) 桜川市立大田小学校 教諭 中里 千夏
 - 17 算数・数学 自ら学び、考え、表現する力を身に付ける算数科指導の在り方(伝え合い、学び合い(花算歩)と学習環境の工夫を通して) 常陸市立大花羽小学校 校長 鮎原 浩一 外全職員
 - 18 特別支援教育 発達障害のある児童の特性に応じた指導・支援の在り方(児童の特性や実態にマッチングした自立活動の工夫を通して) 筑西市立養蚕小学校 教諭 江連 紀子
 - 19 算数・数学 豊かな図形感覚を育てる算数科学習指導の在り方(小学校第二学年「三角形と四角形」における操作的な学習を通して) 牛久市立奥野小学校 教諭 星川 由佳
 - 20 学習指導 社会生活の中から話題を見付け、学ぶ意欲を喚起し、自分の考えを広げたり深めたりする力を育む学習指導の在り方(国語科・社会科の学習における新聞を活用した対話的な活動を通して) 行方市立玉造中学校 教諭 川島 盛寿 外三名

- 〔佳作〕
- 21 体育・保健体育 主体的・協働的な学習活動を促す保健体育科学習指導の在り方(中学校第一学年球技「ソフトボール」における学習過程の工夫を通して) 鉾田市立旭中学校 教諭 三塚 太一
 - 22 生活・総合 気付きの質を高める生活科学習指導の在り方(体験活動と言語活動を中心とした表現活動の充実を通して) 古河市立古河第五小学校 教諭 麻生 泰子
 - 23 体育・保健体育 全員が「泳げた」と感じる水泳指導の在り方(六年生を中心に全学年での水泳指導を通して) 筑西市立古里小学校 教諭 三ヶ田 隆
 - 24 教育課程 資質・能力の育成を目指した小中一貫教育における教育課程の推進(言語活用力と協働力を高めるためのカリキュラムマネジメントの実践) つくば市立吾妻学園中学校 校長 古澤 武司 外全職員
 - 25 算数・数学 算数的活動の楽しさに気づき、数学的な思考力を育む学習指導の在り方(小学校第五学年「整数の性質」における課題づくりや話し合い活動の工夫を通して) 古河市立古河第一小学校 教諭 佐藤 愛
 - 26 体育・保健体育 正しい投動作を身に付け、児童の投能力を向上させる体育授業の在り方(投動作における教材・教具の工夫と運動の生活化を図ることを通して) 下妻市立総上小学校 教諭 若山 竜也
 - 27 家庭・技術家庭 楽しみながら基礎的・基本的な知識や技能を習得し、実生活に活かす態度を育てる家庭科指導の在り方(第五学年「世界に一つだけの学級旗づくり」を通して) 日立市立会瀬小学校 教諭 川久保 晶希
 - 28 理科 東海村周辺の地学的素材を生かした教材の開発と東海ジオパーク(小学校六年生理科単元「大地のつくりと変化」)における実践(那珂郡東海村立白方小学校 教諭 西連地 信男 外教諭 大又 英夫
 - 29 算数・数学 互いに学び合う活動を通して、学習する楽しさを味わい、表現力を高める算数科学習指導の在り方 潮来市立津知小学校 教諭 高野 和之 外教諭 原田 慶子
 - 30 理科 室町 直樹
 - 31 音楽 つくば市立光輝学園手代木南小学校 教諭 斎藤 幸江
 - 32 国語 日立市立滑川小学校 校長 宮田 浩昭
 - 33 体育・保健体育 教諭 菱沼 英則 外全職員
 - 34 特別支援教育 東茨城郡茨城町立長岡小学校 教諭 大谷 まさ子
 - 35 社会 筑西市立下館小学校 教諭 鈴木 智博
 - 36 外国語(外国語) 常陸市立石下中学校 教諭 張替 美紀
 - 37 道徳 常陸市立岡田小学校 教諭 坂本 幸子
 - 38 特別活動 常陸市立絹西小学校 教諭 沼尻 早織
 - 39 教育課程 ひたちなか市立那珂湊第三小学校 教諭 塚本 清恵
 - 40 国語 坂東市立岩井第一小学校 教諭 塚本 美緒
 - 41 特別活動 古河市立八俣小学校 教諭 塚本 有希
 - 42 国語 鹿嶋市立三笠小学校 教諭 亀山 房子
 - 43 特別支援教育 古河市立駒形根小中学校 教諭 柴田 栄田
 - 44 国語 常陸太田市立幸久小学校 教諭 大倉 京子
 - 45 国語 行方市立麻生東小学校 教諭 西村 嘉人
 - 46 国語 ひたちなか市立佐野中学校 教諭 藤城 貴子
 - 47 国語 古河市立古河第三小学校 教諭 小川 美智子

優秀賞受賞のよろこび



行方市立北浦中学校
校長 横田 英一

外全職員

この度は、このような栄誉ある賞をいただき、職員一同喜びとともに、皆様へ心より感謝を申し上げます。これも保護者、地域、関係機関の皆様のご協力の賜と考えます。

本校では、「学校の中心は生徒」という考え方を中核に、生徒にとって「居場所づくり・絆づくり」のできる魅力ある学校づくりを推進するとともに、その過程自体が学校教育目標達成のための取組と捉え実践してきました。新学習指導要領の実施を目前に控え、取り組むべき課題が多岐にわたる今、カリキュラム・マネジメントをプロジェクトチームを中心として、全職員により組織的・継続的に取り組むことは、全教育活動の質の向上と「チーム学校」としての在り方をさらに推進し、生徒、保護者、職員にとって魅力ある学校になり得ると考えます。



水戸市立新荘小学校
教諭 平山 栄治

この度は、このような栄誉ある賞をいただき、心より感謝申し上げます。

本研究では、新学習指導要領が目指す、変化の激しい社会に対応できる汎用性のある資質・能力の育成を目指しました。特に、「社会的な見方・考え方」に着目し、「見方」を生かした「問い」の設定と、「考え方」を視覚化することで主題に迫りました。「深い学び」の関係性が強い「見方・考え方」の活用は、汎用的な資質・能力の育成に必要な不可欠なものであると感じました。

ることができるようになってきています。今後も、児童の「見方・考え方」を鍛えつつ、資質・能力の育成を目指し、研究の継続に努めてまいりたいと存じます。最後に、研究を進めるにあたり、多くの研修の機会を与えてくださった校長先生をはじめ、ご指導くださいました多くの先生方に深く感謝申し上げます。

牛久市立牛久第二小学校
主任 大塚 正則

この度は、優秀賞という栄誉ある賞をいただき、心より感謝申し上げます。このような賞をいただけましたことは、研究を進めるにあたりご指導くださいました校長先生をはじめ、多くの先生方のご支援のおかげでありましたことを、始めに申し上げます。

本研究は、情報管理マネジメントに焦点をあてて、教員の抱えている業務を事務職員に移行することで業務改善を行い、学校組織全体の業務を適正化することを目的とした実践でありました。その結果、教員が子供と向き合う時間の確保に、一定の成果を残すことができました。

業務改善の先には子供たちの未来があり、子供たちがよりよい学校生活を送れるようになること

が、自身の「志」であります。今回の研究成果に満足せず、更なる自己研鑽に努め、牛久二小の「チーム学校」の一員として誇りをもち、引き続き業務改善に力を注いでまいりたいと思います。

鹿嶋市立三笠小学校
教諭 宗次 直巳

この度は、優秀賞という栄誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。

本研究のねらいは、特別支援教育コーディネーターを中心に、校内の支援体制を整備し、校内・外部との連携をどのように図ると効果的であるかを探ることでした。

連携を図るメンバーによる連携ノートの活用・ケース会議によって、児童に関する情報の共有化が図られ、個に応じた支援をすることができました。その結果、個別の教育指導計画の短期目標を達成することができました。外部機関の先生方のご助言により児童への指導方法や役割が明確になり、児童・保護者・担任の安心感につながりました。

受賞後に、ある先生から「先生の力量を信じていつも支えてくださった校長先生方に感謝ですね。」というお話がありました。私も、校長先生を始め三笠小学校の先生方に支えていただき様々な実

践・取組ができたと思っております。心より感謝申し上げます。

鉾田市立鉾田小学校
校長 中村 裕幸
外職員一同

この度、権威ある茨城県教育研究会教育論文に応募し、優秀賞という栄誉ある賞をいただくことができました。職員を代表し感謝申し上げます。ありがとうございます。

本研究は、理科学習において「問題解決の過程を意識して言語活動を効果的に取り入れることにより、科学的な思考力や表現力を高める指導の在り方」を究明した実践をまとめたものです。

理科専科教員を継続して加配していただきTTの授業を積み重ねた結果、効果的な理科授業の共通実践や専門性を生かした指導、児童の実態や個に応じた指導を実施できました。その成果として、学力や科学への興味・関心等を飛躍的に向上することができました。

結びに、本研究を進めるに当たり、ご指導ご助言をくださいました鉾田市教育委員会の先生方をはじめ多くの諸先生方に深く感謝申し上げます。

平成二十九年年度
県外教育事情調査報告

十月十一日(水)・十二日(木)



白新中学校にて

上越市立大手町小学校
新潟市立白新中学校

これからの社会を切り拓いていく資質・能力の育成のための大手町小・白新中の取り組み

土浦市立都和小学校
団長 大竹 正宏

【調査目的】

本年度の茨城県教育研究会の研究の重点に基づき、他県の教育活動の実情調査を行い、本会発展の資料とする。

【訪問校選定の視点】

これからの社会を切り拓いていく資質・能力の育成の取組

【学校訪問】

十月十一日午後一時過ぎに第一日目訪問校の「新潟市立白新中学校」に到着。白新中学校の教育概要について、濱中学校長先生よりご説明いただいた後、各学年の授業参観をさせていただきました。その後、研究主任の山田先生からこれまでの研究成果として、「学びのユニバーサルデザイン」や「ファシリテーション」等についての研究のご説明をいただきました。

二日目の十二日は、「上越市立大手町小学校」を訪問。研究主任の磯野先生から研究テーマである

「自ら学び、共によりよく生きようとする子ども」を育むカリキュラムの創造」についての取組について、「資質・能力をベースとした教育課程の編成」「生活・総合を中核とした年間カリキュラムデザイン・マネジメント」を中心としてご説明をいただきました。その後、授業参観等をさせていただき訪問を終えました。

【県外教育事情調査を終えて】

まず始めに、訪問をご快諾いただきました新潟市立白新中学校濱中力也校長先生、上越市立大手町小学校 大野雅人校長先生に深く感謝申し上げます。また、両校の教頭先生、研究主任の先生方には、お忙しい中、案内や資料の準備、説明など、丁寧なご対応をいただきました。重ねて感謝申し上げます。

両校とも、アプローチの手法こそ違えど、児童・生徒が生き生きと主体的に学び、話し合いを中心とした対話を重視し、深い学びにつながる取組をされていたことに、強い感銘を受けました。派遣された先生方も同様の感想をもたれたことと思います。これらの経験が、各々の今後の教育活動に生かされていくものと、確信しております。

最後に、ご指導いただきました県教育研究会の役員の皆様並びに

事務局の皆様・団員所属校の校長先生方に深く感謝申し上げます。

カリキュラム・マネジメントによる学校づくり推進実践校訪問

北茨城市立常北中学校

副団長 飯塚 浩之

新潟県の公立学校二校を訪問してきました。二校とも非常に特色ある学校です。

新潟市立白新中学校は、FT (ファシリテーション) の手法を通じて主体的・対話的で深い学びを追求しています。授業・部活動・学校行事等でのFTによる話し合いを記録したFG (ファシリテーション) グラフィック) が様々なところに掲示され、実践の積み重ねが見られます。参観した授業でも、仲間と協力して課題を解決する協働力が育まれていました。また、演劇発表会の練習は、脚本から演出・音響・大道具製作等を生徒自身が行うなど、自主的・主体的な活動が印象的でした。FTの積み重ねにより、学校の教育目標である「知性の高い生徒になる」に近づいているのを感じました。

上越市立大手町小学校では、生活・総合を中核とした年間カリキュラムデザイン・マネジメントが印象的です。各学年の活動が廊下・階段一面に巨大な掲示物で、いつでも見られるようになっていま

す。一例ですが、平成二十八年年度の第五学年は「食べること・生きること」をテーマに田畑の栽培、肉牛、豚の飼育等を行い、感じ考えたことを書くこと(まとめること)から聞くこと話すことにつなげていました。豚は出荷から食べることまで行い、「食べること・生きること」に児童が真剣に向き合い、「主体的・対話的で深い学び」による資質・能力が育成されているのを感じました。

二校とも、特色あるカリキュラム・マネジメント、それを支える教職員の研修・協働が、子供たちを学校の教育目標の方向へ育んでいました。「主体的・対話的で深い学び」の可能性を大いに感じた視察となりました。

上越市立大手町小学校

未来を創る真の「自立」と

「共生」

上越市立大手町小学校は、歴史の香漂う町並みと豊かな自然環境に囲まれた素晴らしい生活・学習環境にある学校です。

昨年度まで文部科学大臣指定研究開発学校として研究に取り組む、今年度は、昨年までの研究成果を生かし「自ら学び、共によりよく生きようとする子ども」の育

成」を重点目標として様々な実践を行っていきます。

【資質・能力をはぐくむ教育課程】

大手町小学校は、平成二十四年度からの研究開発学校での研究の成果を生かし、今年度は「生活・総合」を中核に、「三領域十」学びの時間」による教育課程を作成して取り組んでいます。さらに、一年間を五期に区分し、二カ月毎に各学年で振り返り、成果と課題をまとめるとしながら、よりよいものを目指して行っています。

【資質能力を發揮する】

地域の商店街の方々との交流を通して地域の一員として「大切なこと」に気付いた体験活動や大型動物の飼育を通して命の尊さと「食べること・生きること」に葛藤し、本気で語り合う貴重な体験な



算数科の授業
大手町小学校にて

ど、校舎内の至る所に掲示された立派な活動の足跡から知ることができ、子供たちの資質や能力を引き出し、それを發揮できる場を提供していることに感銘しました。

さらに大手町小学校の児童は、一日の出来事や活動を振り返り、感じたこと・がんばったこと・心に残ったことを学びのシールに書きためていました。また、決められた委員会活動ではなく、自ら進んで必要だと思ふ活動を友達と行う「リーダー活動」やスポーツフェスティバル（運動会）・文化祭の実行委員会も自主的に募って活動し、学校行事を運営するなど、子供たちは学校生活の様々な場面で、個々の力を有意義に發揮していました。

【学校・家庭・地域の同軸化】

大手町小学校では、家庭・地域と学校が教育理念を共有し、愛情と信頼で貫かれた二本の軸で連携していく「三者連携の同軸化」を推進しています。大型動物（牛・馬・豚など）の飼育、学校農園での野菜や米の栽培、地域の商店街での体験活動など、子供たちが生き生きと活動できる場が維持できるのだと感じました。

大手町小学校は、学校・家庭・地域が協力し合って子供たちの成長を支えている学校です。

新潟市立白新中学校

「未来を切り拓く確かな力」を育む共育課程

新潟市立白新中学校は、新潟市の中心部に位置し、大江信濃川の河畔に位置する創立七十周年を迎える学校です。かつては二千二百人を超えた生徒数でしたが、今は二百人を少し超えるほどです。教育目標「知性の高い生徒になる」を掲げ、「進んで学習し、粘り強く追究する」（自主）、「目標の達成に向けて自らの役割を果たす」（協働）、「自らを鍛え、自己を高めようとする」（自己実現）を具体的資質としています。学校へ到着したときは清掃活動の時間でしたが、どの生徒も気持ちのよい挨拶をしてくれ、生徒の質のよさを感じました。

研究主題は、「未来を切り拓くたしかな力」を育む教育課程「学びを再構成し、自己実現に向かう生徒の育成」です。この教育主題を実現するために、学びのユニバーサルデザイン（UD）とファシリテーション（FT）を基盤として、教育課程を再構成しています。

【UDの徹底・改善】

研究主任の年齢が二十代という若い教員が多い学校です。若い教員もベテランの教員もそれぞれのよさはありますが、ベテランの教



社会科の授業
白新中学校にて

員の教育に対するノウハウは若い教員にはありません。そのためにUDが必要になってきます。白新中学校では、UDを徹底して行うことで、全教員が同じ指導をすることができま。白新スタンダード10として、全教員が学習課題、学習環境・学習形態、指示・発問、板書・ワークシート・ノート指導、教材・教具・ICTなど、同じ方向を向いて指導しています。

【FTによる主体的・対話的で深い学びの授業の実現】

教師主導の受け身の授業から生徒が主体的に挑む授業への転換、教師主体の一律的な認識の押しつけから生徒主体の疑問や気付きに根ざした学習の結果としての深い学びへの転換をするためにFTが取り入れられています。基本的なプロセスは、次のようなものです。

- ①多様な意見が出るような発問を提示し、論点に対する個々の考えを生徒にもたせま。
- ②個の考えをグループで出し合い、拡散します。
- ③拡散された意見を整理し、価値付けできる発問を提示することで、「構造化」を促します。
- ④授業や単元の終末に課題の設定・追究・解決の過程を総じて振り返らせま。これにより、生徒は獲得した知識や技能だけでなく、学びのよさ、価値や意義についても自覚し、たしかな学びを実感するこ

県外教育事情調査に参加して

坂東市立神大実小学校
古谷 朋美

大手町小学校では、どの教室に入っても、子供たちが主体的に授業に参加している姿がとて印象的でした。馬や豚などを飼育しながら命の大切さを学ぶ授業に取り組み、体験して学んだことを目標に照らして、自分の言葉でしっかりとまとめることができていることに感銘を受けました。

このように児童が主体的に活動できるのも常に教師が「こんな活動を子供たちにさせたい。」と熱意をもって取り組む姿勢があるからだ実感することができました。目の前の児童の学びにも生かしていきたいと思えます。

桜川市立桃山中学校 小松崎 渉

白新中学校では、すべての生徒が「わかる、できる、学び続ける」ことを目指し、学びのユニバーサルデザインを基盤としたファシリテーションの手法を用いた授業を行っていました。私が参観したのは数学科でした。文章問題の解き方をマスターする学習を行っていました。教師が一方的に教え込むのではなく、お互いの考えを可視化したり、引き出したりする学び合いのある授業でした。生徒が生き生きと課題解決を図る姿を見て感銘を受けました。自分自身の授業改善のヒントをいただいたと思います。

何も揭示せず、生徒の椅子の脚にはテニスボールを付けて、音が鳴らないような工夫がありました。二日目に訪問した上越市立大手町小学校は、生活・総合を中核に教育課程を編成していました。一年と六年の縦割り班活動が活発で、運動会にも縦割りの種目があるなど、六年生が主体的に活動できる手立てが多数見られました。一年間の活動を模造紙にまとめたり、先生方が話し合ったことをKJ法でまとめたり、活動の足跡が素晴らしいかったです。

笠間市立笠間小学校 植木 康

白新中学校では、ファシリテーションをキーワードにリーダーが話し合いを視覚化して進めていて、印象的でした。大手町小学校の生活・総合の取組は教師たちの熱意が素晴らしいと思えました。

全体を通して、私が特に注目した自分の教育内容に生かしていきたいと思った内容は、環境についてです。子供たちの声(言葉)が目に入りやすい環境は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に有効であると感じました。白新中のKJ法を用いた特別活動の掲示物も大手町小の大きな生活・総合の掲示物も、話し合いの様子が構造化され、子供たちの思いや思考の跡がよく伝

わってくる内容でした。

ひたちなか市立那珂湊第二小学校 矢吹 美左子

白新中学校では、学びのUDとFTの手法を用いた学び合いで、「知性の高い生徒の育成」に取り組んでいました。授業や演劇の練習の場で、自信をもって意見を出し、積極的に活動する生徒の姿に研究の成果を感じました。

大手町小学校では、学年毎のカリキュラムの作成と年間五回の見直しと修正により、児童の学びに寄り添いながら共に活動を創っている様子うかがえ、学びの基本を再確認する機会となりました。越後一會(こいっち)と言え、二日間でした。

石岡市立小桜小学校 加固 庄一

大手町小学校では、恵まれた環境を十分に生かした大手町カリキュラムを作成し、『真の自立と共生』に取り組んでいました。子供たちが最高の笑顔で生き生きと活動している姿が印象的でした。子供たちにとって何が「必要な学び」なのかを追求していく職員研修の記録は大変勉強になりました。

白新中学校は、「一人一役・全員主役」の組織体として日々の教育活動に取り組んでいます。演劇発表に向けての準備では、一人一人が自分の役割を理解し、無駄な動きをすることなく、意欲をもって取り組む姿が印象に残りました。

取手市立取手第一中学校 山田 浩

行方市立玉造小学校 竹内 文枝

両校とも、新潟県の公立学校の代表として高い志をもち、職員が一致団結して教育に力を注いでいる意欲を感じました。またユニバーサルデザインを取り入れた環境づくりに配慮が見られました。

白新中学校では、ファシリテーションの手法を用いて、自分の考えを造り上げ、協働して問題に取り組む生徒の育成に重点をおいていました。

竜ヶ崎市立城西中学校 中村 依利香

白新中学校の教室に入って、まづ机と椅子の脚に硬式用のテニスボールがつけてあることに驚きま

した。机や椅子を動かす際に出る音を防ぎ、子供たちの集中力を妨げないための配慮でした。教室の前面に余計な掲示物は何もなくて、どの教室にも「学習のめあて」や「まとも」などのマグネットが置いてあるほか、廊下や壁には各教科、学級、部活等を取り組んだ話し合いの足跡が掲示物にまとめられていました。今回の視察で最も強く感じたのは、教科や学年だけでなく、すべての職員が同じ方向を向いて子供たちの教育に携わっていることでした。深い学びへのヒントを得られた気がしています。

白新中学校では、学びのユニバーサルデザインを基に問題解決的な学習をファシリテーションで展開し、主体的・対話的で深い学びの実現を追求していました。机や椅子の足にテニスボールをはめて、音が出ないような環境を作ることや、廊下や教室に生徒が主体的にかかわっている掲示物を貼るなど、細部にわたって生徒が深い学びをするための心配りがされていました。清掃活動から授業、演劇発表の練習と参観させていただきましたが、どの活動でも生徒が主役となって活躍している様子がうかがわれました。

水戸市立河和田小学校 市毛 明子

一日目に訪問した新潟市立白新中学校では、学びのUD(ユニバーサルデザイン)やFT(ファシリテーション)を取り入れて研究を進めていました。黒板の周りには

視点

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の改善・充実

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の改善・充実

水戸市立第三中学校
校長 日下部 秀雄

「併設型小中一貫教育の在り方『九年間の学びの連続性を目指して』」のテーマのもと、学校区三小学校和連携しながら、共に学び共に伸びる生徒の育成を目指している。主体的・対話的で深い学びの三つの視点から学びの過程をつくることで、生徒の資質・能力を育む授業の工夫・改善を図ってきた。

一 主な取組

(一)「主体的な学び」の視点から

- 興味・関心を高める学習課題の設定と共有
- 自己の学びを振り返り、次の学びにつなぐ時間の確保

二 主な成果

○九年間の学びの連続性を目指し、学校区三小学校との連携をより深めることができた。

○全ての教科等で振り返りの時間を確保し、充実・発展を目指すことで、より主体的に学ぶ授業づくりができた。

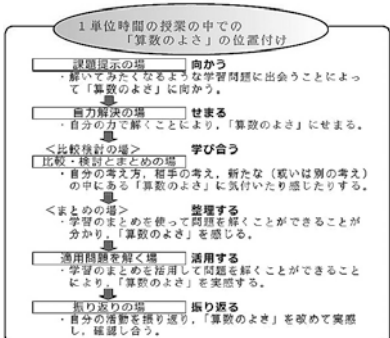
『算数のよさを感じる指導の在り方』を追究する授業改善

城里町立七会小学校
校長 村岡 康秀

互いに学び合い、自分や集団の考えを深める活動を通して、『算数のよさを感じる指導の在り方』

二 主な成果と課題

五段階構成を十全に準備し授業展開することで、「主体的・対話的で深い学び」の実現をイメージできた。課題は、さらなる質の高い学び合いの追究である。



(二)「対話的な学び」の視点から

- 自己の考えを広げ深める他者との交流や対話の重視
- 地域の人や社会・自然とのかわりを創るカリキュラム
- (三)「深い学び」の視点から
- 知識を相互に関連付けて理解を深める活用場面の設定
- 問題を見出して解決を目指す探究場面の設定
- (四)学びの過程を支える視点から
- 規律と協働の理念の共有
- 振り返りの時間の確保・充実・発展を大切に授業づくり
- 見通しをもって自ら学びに向かう家庭学習の計画づくり
- 九年間を見通した系統的な年間指導計画の作成

に取り組み、今年は二年目となる。本テーマに迫るための大きな柱を

- 魅力的な課題提示
- 対話的な学び合い
- メタ認知の醸成

とし、まさに「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて全職員ベクトルを「チーム七会」で授業改善を図ってきた。

一 主な取組

「算数のよさ」を感じるとは、授業構成の中の「比較・検討」と「め」の場」で「算数のよさ」に気付いたり感じたりする情動が表れると考えた。また、「適用問題を解く場」と「振り返りの場」は、「算数のよさを実感する（より確かに感じる）」場であると捉えた。

「主体的・対話的で深い学び」の実現は基礎・基本の定着から

北茨城市立磯原中学校
校長 櫻村 宣行

本校の大きな課題は学力向上であり、「当たり前」の育成こそが、前にできる子の育成こそが、「主体的・対話的で深い学び」の実現への第一歩と考える。そこで、生徒には学習・生活習慣の確立を、教員には「楽しく分かる授業」の実現を目標として掲げた。

一 主な取組

- ・小中連携による「家庭学習の手引き」や「生徒指導個票」の作成、学習規律の確立のための「九年間の学びの保障」
- ・実践的・体験的な活動を重視したキャリア教育の充実
- ・朝の学習タイムでの読書活動の推進と基礎力テストによる基礎・基本の確実な定着
- ・朝のランニングタイムによる体力の向上と粘り強さの育成
- ・ノーチャイムでの「五分前行動、二分前着席」の励行による自己管理能力の育成
- ・「黙働清掃」による環境づくり
- ・生徒会を中心とする活動の充実による自治的能力の育成
- ・特別支援教育専門家派遣事業の活用と特別支援学級の新設による特別支援教育の充実
- ・小中文化のよさを知るための

相互授業参観と学区の課題解決のための合同研修会の実施

- ・TTによる細やかな授業指導

二 主な成果

生徒に自己有用感が高まり、何事にも積極的に取り組むようになった。また、学校が楽しいと感じる生徒が増加し、生徒指導上の問題が減少してきた。

三 今後に向けて

さらに本校の特性を生かした授業改善こそが「深い学び」へ繋がるものと確信している。

主体的に学びに向かう児童の育成、校内研修を核にした授業改善、

土浦市立中村小学校
校長 百瀬 初江

児童の主体的な学びの姿を実現するためには、学校全体で授業改善に取り組むことが不可欠である。そこで、研究主任を中心に児童の実態を踏まえ、研究テーマを「児童の確かに読む力を高める国語科学習指導の在り方」、サブテーマを「説明的文章における読み取ったことを書く活動を通して」として研修に取り組んだ。

一 研究のねらい

児童が主体的に文章を読み取り、理解したことを書く活動を通して確かに読む力を高める国語科学習指導の在り方を追究する。

二 研究の実際

(一)理論研修の機会設定と研究の方向性の共有化

①外部講師招聘による模擬授業

②管理職による講義と研究協議

(二)授業研究の手立て

①学年段階に応じた言語活動

(書く活動)の設定

②授業展開の工夫

・音読譜の活用・教材文の準備

・ワークシートの工夫と構造化等

(三)各学年の授業実践

○説明文を主体的に読み、読み取ったことを書く活動を単元構成に組み入れた授業展開の工夫

・文章の構成を捉え、論の進め方を読み取る活動

・説明文を要約をしたり自分の文章に引用したりする活動

・教科書教材で学んだことをもとに自作教材を読み取る活動など

三 主な成果

○読み取ったことを書く活動を行うことは、文章を正確に読むことにつながった。さらに論理的思考力を高め、自分の考えを明確にすることができた。

○児童の読書意欲が高まった。

ともに学び、考えることを通して課題を解決できる児童の育成

守谷市立郷州小学校

校長 笹本 恵美子

本市の推進する保幼小中高一貫

教育を軸に、本年度は、学び合いを取り入れた、主体的で、対話的で、深い学びを創り出す授業づくりを目指し、本校校区として算数科の研究を進めた。

一 主な取組

(一)学び合いの成立条件

①学び合いの視点が明確である。

②児童が課題に対して自分の考えをもつことができる。

③児童が自分の考えを伝えることができる。

④児童が自他の考えと比較しながら聞くことができる。

⑤児童が自分の考えを振り返ることができている。

・学び合いの接続を考え、授業の練り上げを重視する。

(二)主体的・対話的な深い学び、協働的な授業展開

①自ら課題を見つけようとしたり、新たな性質や考えを見いだそうとしたりする。

②課題解決のための学び合いを実践することで、基礎・基本を身に付け、考えを広げたり、考えを深めたり、考えをまとめたりする。

③知識や経験を関連づけて、学習に活用しようとする。

二 主な成果

(一)自分の考えをもち、主体的に学び合う児童が増えた。

(二)考えの相互伝達ができる児童

が増えた。

(三)多様な見方や考え方に気づき、自分の考えを深められる児童が増えた。

(四)同一学区内で学び合いの共通理解を図ったことで、小中の円滑な接続が見られた。

主体的に学び合う授業づくりを通じた確かな学力の育成

古河市立八俣小学校

校長 落合 悟

「自己肯定感が低く、主体的に学ぼうとしない児童」を、「主体的に学び、自分の力を伸ばすことができる児童」へ導くために、四つの研究部を立ち上げ、研究に取り組んできた。

一 主な取組

(一)自己肯定感を高める取組

○ほめ言葉シャワー

○ソーシャルスキルトレーニング

(二)学力差をなくす取組

○チャレンジの活用

○学び合い

二 主な成果

(一)ほめ言葉のシャワーやソーシャルスキルトレーニングを取り入れることで、良好な人間関係を築くことができ、安心して「分らない」「教えて」と話ができるようになってきた。

対話が増えたと児童の主体的な学びが促進され、学習

意欲の高まりが見られた。

(二)学習形態を工夫することで、「分らないときに聞くことができる」という安心感を得るだけでなく、自分の考えを友達に伝えたり、聞いたりすることでより深い学びができるようになってきた。

(三)正解だけを共有するのではなく、分らないことを共有すること、分らないことを出し合う「様々な考えを出し合うことになる。これを繰り返しているうちに、自分の考えを友達に説明したり、説明する方法、表現の仕方を工夫したりするようになってきた。

誰かが参加し、考えを深められる授業の在り方

松本市立岩瀬東中学校

校長 館 弘

主体的・対話的で深い学びとユニバーサルデザイン化によって授業改善を図り、生徒の思考力や判断力、表現力の育成を図った。

一 主な取組

(一)主体的・対話的で深い学び

①課題設定の工夫

・生徒が興味をもてる課題を設定

・意見交流を通して多様な考えに触れたり、共有したりできる課題を設定

・ペアで目標達成を目指す課題

(二)ユニバーサルデザイン化

・ホワイトボードを用いてグループ学習から一斉学習に広がった。

・課題→予想→方法→観察→結果→考察→まとめ→振り返りを掲示して明確化

・ICTを活用して、実際の学習の内容を視覚化

・キーワードを明確化し、授業の各段階でそれらを意識した活動

二 主な成果

(一)学び合いを重視した授業に転換することで、生徒の主体性が高まり、課題解決への意欲が向上してきた。さらに、対話の機会が増え、生徒同士の間関係づくりに役立った。

(二)ユニバーサルデザインの具体的実践を行うことで、職員が生徒一人一人を大切にすることが高まり、基礎的・基本的意識が高まり、基礎的・基本的内容の定着と学力向上に繋がった。

(三)授業改善に取り組み、職員の指導力向上の意識が高まった。



水戸三高 SSH 事業による理科の授業 (水戸市立飯富小学校)

研究部

本年度のあゆみ

平成29年度・研究目標 ・活動と反省

- 一 郡市部長研修会
- 期日 五月二十六日(金)
- 会場 教育プラザいばらき
- 講話 「国語教育の現状と課題」
- 講師 県教育庁学校教育部 義務教育課指導主事 大越 茂先生
- 二 国語指導者筑波研修会
- 期日 七月二十八日(金)
- 会場 つくば市ホテル青木屋
- 講話 「育成すべき資質・能力を明確にした国語科授業づくり」
- 講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 菊池 英慈先生
- 三 手作りテスト研修会
- 期日 八月一日(火)
- 会場 教育プラザいばらき
- 講師 那珂市教育委員会 指導主事 野村 仁先生
- 四 県芸術祭小中学校美術展覧会
- 会期 十一月二十九日(水) ～十二月三日(日)
- 会場 県民文化センター

- 一 郡市部長研修会並びに役員会
- (一)第一回 五月二十五日(木)
- (二)第二回 二月二十二日(木)
- 二 第四十六回郷土教育研修会 (かすみがうら市大会)
- (一)八月二十二日(火)
- (二)かすみがうら市あじさい館
- (三)浦(みずうみ)の風かおる伝統の丘ーかすみがうら市を訪ねてー
- 三 ブロック別授業研究会
- (一)中央 笠間市
- (二)県東 鹿嶋市
- (三)県北 北茨城市
- (四)県南 守谷市
- (五)県西 桜川市
- 四 研究推進委員研修会並びに研究主題検討委員会
- (一)研究推進委員研修会
- ・八月九日(水)
- ・教育プラザいばらき
- ・講師 文科省教科調査官 樋口 雅夫先生
- (二)研究主題検討委員会
- 五 全国小学校社会科教育協議会 奈良大会参加
- 提案 ひたちなか市長堀小 川村 潤子先生

- 一 地区別実験実技研修会
- 中央・県北地区
- 二 科学教育研修会
- 県東・県南・県西地区
- 三 茨城県児童生徒科学研習作品展
- (一)地区展
- 期日 九月三十日～十月八日
- 会場 県内五会場
- (二)県展
- 期日 十月十九日～二十二日
- 会場 茨城県自然博物館
- 四 茨城県発明工夫作品展
- (一)地区展
- 科学研習作品展と同時開催
- (二)県展
- 期日 十月二十日～二十二日
- 会場 茨城県産業会館
- 五 研修会
- (一)文部科学省講演会
- 期日 八月二十一日
- 会場 茨城県総合福祉会館
- (二)小学校指導方法等研修会
- 期日 一・二・三学期
- 授業研究会 計十八回
- ※会場校ブロックで各学期二回ずつ実施
- (三)いばらき理科アイテムを活用した授業実践(中学校)
- 各郡市単位で実施
- ※WEBページに掲載開始

- 一 郡市部長研修会及び役員会
- 五月二十六日(金) 教育プラザ
- 二月十六日(金) 教育プラザ
- 講師 県教育庁学校教育部 義務教育課指導主事 廣木 一博先生
- 二 役員研修会 教育プラザ
- 七月二十五日 一月十八日
- 三 全国並びに関東地区小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会神奈川大会への参加
- (一)期日 十一月二日(木)
- (二)分科会担当
- 〈中央A〉
- 提案者 毛利康孝先生(納場小)
- 司会者 宮田直実先生(橘小)
- 助言者 水内幸恵教頭先生(橘小)
- 〈県北〉
- 提案者 萩谷隆子先生(里美小)
- 司会者 富山秀夫教頭先生(里美小)
- 助言者 鈴木京子指導主事(県北)
- 四 地区別授業研究会
- 中央A 水戸市立笠原中学校
- 中央B 大子町立だいご小学校
- 県北 常陸太田市立里美小学校
- 県東 神栖市立波崎第四中学校
- 県南A 土浦市立真鍋小学校
- 県南B 稲敷市立新利根小学校
- 県西A 坂東市立七郷小学校
- 県西B 結城市立絹川小学校

国語

重点研究部

生きてはたらく国語の力は
はぐくむ授業の創造

部長 矢萩 賢一

本年度は、次の事業を実施した。

社会

「かわり」を深め、未来を
創る力をはぐくむ社会科学習

部長 大和田 栄

一 郡市部長研修会並びに役員会

(一)第一回 五月二十五日(木)

(二)第二回 二月二十二日(木)

二 第四十六回郷土教育研修会 (かすみがうら市大会)

(一)八月二十二日(火)

(二)かすみがうら市あじさい館

(三)浦(みずうみ)の風かおる伝統の丘ーかすみがうら市を訪ねてー

三 ブロック別授業研究会

(一)中央 笠間市

(二)県東 鹿嶋市

(三)県北 北茨城市

(四)県南 守谷市

(五)県西 桜川市

四 研究推進委員研修会並びに研究主題検討委員会

(一)研究推進委員研修会

・八月九日(水)

・教育プラザいばらき

・講師 文科省教科調査官 樋口 雅夫先生

(二)研究主題検討委員会

五 全国小学校社会科教育協議会 奈良大会参加

提案 ひたちなか市長堀小 川村 潤子先生

理科

科学する面白さを感じながら、
身の回りの事象とかかわって
く子どもの育成

部長 陶 慶一

本年度は以下の事業を行った。

一 地区別実験実技研修会

中央・県北地区

二 科学教育研修会

県東・県南・県西地区

三 茨城県児童生徒科学研習作品展

(一)地区展

○期日 九月三十日～十月八日

○会場 県内五会場

(二)県展

○期日 十月十九日～二十二日

○会場 茨城県自然博物館

四 茨城県発明工夫作品展

(一)地区展

科学研習作品展と同時開催

(二)県展

○期日 十月二十日～二十二日

○会場 茨城県産業会館

五 研修会

(一)文部科学省講演会

○期日 八月二十一日

○会場 茨城県総合福祉会館

(二)小学校指導方法等研修会

○期日 一・二・三学期

○授業研究会 計十八回

※会場校ブロックで各学期二回ずつ実施

(三)いばらき理科アイテムを活用した授業実践(中学校)

○各郡市単位で実施

※WEBページに掲載開始

生活・総合

子供の未来を拓く・生活科・総合
な学習の時間の創造ー自主性・自立
性を育む「深い学び」をめざしてー

部長 内田 和子

本年度は、研究主題のもと次の事業を実施し、研修を推進した。

一 郡市部長研修会及び役員会

五月二十六日(金) 教育プラザ

二月十六日(金) 教育プラザ

講師 県教育庁学校教育部 義務教育課指導主事 廣木 一博先生

二 役員研修会 教育プラザ

七月二十五日 一月十八日

三 全国並びに関東地区小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会神奈川大会への参加

(一)期日 十一月二日(木)

(二)分科会担当

〈中央A〉

提案者 毛利康孝先生(納場小)

司会者 宮田直実先生(橘小)

助言者 水内幸恵教頭先生(橘小)

〈県北〉

提案者 萩谷隆子先生(里美小)

司会者 富山秀夫教頭先生(里美小)

助言者 鈴木京子指導主事(県北)

四 地区別授業研究会

中央A 水戸市立笠原中学校

中央B 大子町立だいご小学校

県北 常陸太田市立里美小学校

県東 神栖市立波崎第四中学校

県南A 土浦市立真鍋小学校

県南B 稲敷市立新利根小学校

県西A 坂東市立七郷小学校

県西B 結城市立絹川小学校

工 作 術
感性を豊かにし、創造する力を
育む、図画工作・美術教育の在
り方

部長 堀江 俊夫

育 体
「できる、わかる、かかわる」
を保証する体育学習

部長 朝倉 美広

家 庭
「よりよい生活をめざして、課題を解決する能力
と実践的な態度をほくむ家庭教育(小・中・高)
本来の創りとなるために必要な資質、能力を
育む技術 家庭科教育(中・高)」

部長 寺内 雅美

道 徳
自立した人間として、他者と共
によりよく生きようとする児童
生徒を育てる道徳教育

部長 篠瀬 浩幸

校 館
確かな学力と豊かな人間性をほぐくむ学校
図書館(学習センター・情報センター・読書セ
ンター機能のさらなる充実を目指して)

部長 添田 智

本年度は、研究主題のもと次の
事業を実施し、研修を推進した。

一 郡市部長会・研修会

○五月二十六日／県陶芸美術館

二 夏季実技研修会

○八月一日／茨大附属小学校

講師 群馬大教授 林 耕史

三 研究調査委員会【最終報告】

○八月一日／茨大附属小学校

研究調査二年・完結発表会

四 第五十回県図工・美術教育研

究県北日立大会

大会テーマ

「心のひきだしあけてカラフル」

○十月二十日

十王中学校／櫛形小学校

県北生涯学習センター

五 全国／関プロ造形教育研究

長野大会への参加

○十一月十七・十八日／軽井沢

提案・司会・記録・助言

〔担当／県南・県西地区〕

六 県芸術祭小中学校美術展覧会

への参加・運営

○十一月二十九日～十二月三日

／県民文化センター

七 郡市部長会・研修会

○二月二十二日／県近代美術館

八 部報第四十七号の Web 掲載

二月

一 第一回郡市部長研修会

(一) 期日：五月三十日(火)

(二) 場所：教育プラザいばらき

(三) 内容

○平成二十九年度役員を選出・

事業計画等の確認

○今後の研修会等の地区決定

二 第一回研究推進委員研修会

(一) 期日：六月三十日(金)

(二) 場所：教育プラザいばらき

(三) 内容

○学校体育協議会の確認

○関東中学校保健体育研究協議

会開催の確認

(四) 研修会講師：茨城県教育庁

学校教育部保健体育課

指導主事 塚田 勝之先生

三 体育実技研修会

○県南(牛久市)・県東(潮来市)

四 授業研究会(十月二十七日)

○中央：水戸市立大場小学校

五 第二回研究推進委員研修会

(一) 期日：十二月五日(火)

(二) 場所：教育プラザいばらき

(三) 内容

○学校体育協議会の確認

六 学校体育協議会

(一) 期日：二月二十七日(火)

(二) 場所：県教育研修センター

(三) 内容

講演会及び研究発表会

平成三十一年度の中学校技・

家、平成三十二年度の小学校家庭

科関プロ茨城大会に向けて、研究

を推進してきた。

一 郡市部長研修会 五・六・二月

二 推進委員研修会 六・八・二月

三 授業研究会 七月

つくば市立谷田部東中学校(技)

土浦市立都和中学校(家)

四 いばらきものづくり教育フェア

○アイデアバッグコンクール

筑西市立下館南中学校

○木工チャレンジコンテスト

筑西市立下館南中学校

○創造ロボットコンテスト

つくば市立谷田部東中学校

○いばらきロボットコンテスト

日立市立駒王中学校

○おべんとうコンクール

小美玉市立小川北中学校

○児童・生徒作品コンクール

イオンモール水戸内原

五 関プロ中新潟大会提案発表

「材料と加工」(県南地区)

「衣・住生活」(県南地区)

六 全国小家石川大会提案発表

「家庭生活と家族」

七 全国中学生創造ものづくり教

育フェア参加

関プロ大会(埼玉県) 十二月

全国大会(東京都) 一月

今年度は、関東ブロック小学校

茨城大会を開催した。

○主な事業

一 郡市部長・研究推進委員合同

研修会

年間七回開催

二 関プロ小学校茨城大会

十一月十七日(金)

ひたちなか市立市毛小学校

発表者 菊田千河子教諭(笠間

小)、中山 尚美教諭(絹西

小)、関山 徹教諭(山田

小)、菊地 淳子教諭(中村

小)、渡邊 裕子教諭(春日

学園義務教育学校)、石川

夕香里教諭(玉造小)

助言者 井元 光子 教頭

橋本 浩志 指導主事

鈴木 孝裕 指導主事

秋本 通恵 指導主事

齋藤 信一 指導主事

小林 詠二 指導主事

講師 赤堀 博行 先生

帝京大学教職大学院教授

三 各研修会への参加

「全小道夏季中央研修講座(東

京都)」「全中道道徳教育推進教

師育成講座(東京都)」へ、県内

より教諭等が参加した。

四 平成三十一年度関プロ中学校

茨城大会の準備

本年度は、研究主題に迫るため

に、左記の事業を実施した。

一 郡市部長研修会

○第一回(五月二十四日)

○第二回(二月八日)

○会場 教育プラザいばらき

二 茨城県学校図書館研究大会

○期日 七月二十八日

○会場 教育プラザいばらき

○茨城県高等学校教育研究会の

共催、約二百名の参加者

三 関東地区学校図書館研究大会

群馬大会への参加

四 第五十五回茨城県小・中学校

読書感想文コンクールの実施

(九月、十月)

五 読書感想文集第四十八号の編

集・発行 (十二月、二月)

六 第六十三回青少年読書感想文

全国コンクールへの参加

七 第三十一回茨城県読書感想画

コンクールの実施 (一月)

八 「いばらき読書フェスティバ

ル二〇一七」の後援

○期日 十一月五日

○会場 茨城県立図書館

特別支援
一人一人のニーズに応じた特別な支援の在り方をめざした教育活動の推進
部長 榊原 利光

生徒指導
いじめや不登校を出さない積極的な生徒指導の在り方
校長 白石 カ

学校事務
活力ある学校づくりを支える学校事務の在り方
部長 和田 雅彦

学校健康
主体的に生きるための学校健康教育の在り方
部長 川原井 勝雄

その他
「子どもの自主性・自立性を育む社会に開かれた教育課程の編成」
部長 増田 年男

本年度は、この研究主題のもと次の事業を実施した。

一 郡市部長研修会

①五月十八日(木)

②二月二十三日(金)

二 特別支援学級担当者研修会

知的障害教育研究部会、自閉症・情緒障害教育研究部会、難聴・言語障害教育研究部会それぞれ、全県対象または五つのブロックに分かれて、研修会を実施し、担当者の資質能力の向上を図った。

三 進路実態調査

中学校特別支援学級卒業生の進路実態調査を実施し、冊子にまとめ、各特別支援学級設置中学校に配布して、進路についての情報を共有した。

四 ナイスハートふれあいフェスティバルへの参加

○期日 十二月九日～十二日

○会場 県民文化センター

学習発表会及び美術展に参加
出品し、日頃の学習の成果を発表した。

五 研究部広報誌「いばら五十号」の発行

講師 茨城大学教育学部長 生越 達先生

本年度の研究主題に基づき、以下の事業を実施した。

一 第一回郡市部長会議及び研修会

○期日 五月十六日(火)

○会場 教育プラザいばらき

○内容

・組織づくり・事業計画
・講演「楽しい経営のために」
・講師 水戸市教育委員 東小川 昌夫先生

二 役員会並びに県生徒指導研修会

○期日 十一月二十二日(水)

○会場 教育プラザいばらき

○内容

・実践発表・協議
守谷市立松ヶ丘小学校
北茨城市立中郷中学校

三 第二回郡市部長会議及び研修会

○期日 一月二十六日(金)

○会場 教育プラザいばらき

○内容 反省と次年度の準備
・講演「積極的な生徒指導におけるキャリア教育の重要性」
講師 茨城大学教育学部長 生越 達先生

研究主題に迫る事業として、本年度は左記のとおり実施した。

一 郡市部長会議・研修会

(一)郡市部長研修会
期日 五月二十五日(木)
場所 教育プラザいばらき

・研究主題・事業計画など
(二)県北ブロック研究協議会
(三)各郡市部研修会

二 県北ブロック研究協議会など

(一)運営委員会
・第一回六月十五日(木)
・第二回七月二十八日(金)
・第三回十月六日(金)
・第四回十一月二十九日(水)

(二)研究推進委員研修会
(三)研究実践委員研修会

三 茨城県学校事務研究協議会

(一)開催担当 県北ブロック
(二)期日 一月二十六日(金)
(三)場所 常陸太田市 生涯学習センター

研究発表は「若い力を育てるチーム日立の共同実施」と「県北四市(常陸太田市・日立市・高萩市・北茨城市)の学校運営支援の取組」を発表した。

三 「学校事務研究部のあゆみ」
各郡市部の活動状況報告を集約し、各校へメール配信した。

本年度は次の四事業を実施した。

一 郡市部長会議並びに研修会

五月
講話「学校健康教育の現状と課題」
講師 県教育庁学校教育部保健体育課健康教育推進室 室長 山口 修先生

二 役員・研究推進委員研修会

六月
講話「茨城県の学校健康教育の現状と課題について」
講師 保健体育課健康教育推進室 指導主事 澤木 努先生

三 ブロック別研究協議会

(一)県北 日立南交流センター 十一月
(二)県西 県西生涯学習センター 十一月
(三)県東 茨城県女性プラザ 十二月

四 第二回・郡市部長並びに研究推進委員研修会

一月
講話「学校における健康教育について」
講師 保健体育課健康教育推進室 指導主事 吉野 恵子先生

(一)ブロック別研究協議会報告
(二)本年度の事業の反省とまとめ
(三)次年度の事業計画と立案

新学習指導要領の移行、完全実施を見据え、また、「いばらき教育プラン」の趣旨から、前年度に続き「子どもの自主性・自立性を育む社会に開かれた教育課程の編成」を研究主題とした。

小中学校とも、次年度から新学習指導要領の移行期間に入る。「何をどのように学ぶか」「何ができるようになって何が身についたか」「実施のために何が必要か」等、児童生徒が未来社会を生き抜くための資質や能力を社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」が一層重視される。

各地域、各学校の実態を踏まえ、よりよい教育課程の編成に係る研究の情報を共有していくことが大切である。

算数・数学
「主體的・対話的で深い学びの実現」を目指して
部長 川又 宏文

本年度は研究主題のもと、次の事業を実施した。

一 研究協議会並びに研修会

○第一回 五月二十六日(金)

○事業計画及びテーマの検討

○第二回 二月二十八日(金)

○事業報告、次年度の事業計画

○講話 県教育庁義務教育課

指導主事 小林 栄司先生

二 学習指導法研究協議会

○前期 六月二十三日(水)

○公開授業

ひたちなか市立前渡小学校

ひたちなか市立大島中学校

○研究発表・研究協議

○講演 文部科学省 国立教育政策研究所 学力調査官

佐藤 寿仁先生

(二)後期 十一月十日(金)

○公開授業

常総市立豊岡小学校

常総市立水海道中学校

○研究発表・研究協議

○講演 東京学芸大学

教授 西村 圭一先生

三 五ブロック別指導法研修会

○研究発表・研究協議

共に感じ 共に楽しみながら心むすぶ音楽を求めて

部長 川井 洋子

本年度は、次の事業を実施し、研究を推進した。

②二月 六日(火)
二 英語インタラクティブフォーラム各都市・各地区・県大会
・県大会 八月二十二日(火)
筑波学院大学(つくば市)
第六十九回高円宮杯全日本中学校英語弁論大会茨城県大会
・期日 十月五日(木)
茨城県教育研修センター
参加生徒 六十七名

【本年度の主な事業】

一 郡市部長研究協議会

五月二十三日・二月二十一日

二 研究推進委員研修会

六月十五日・二月二十一日

三 実技研修会・指導法研修会

(一)歌唱指導法研修会 六月三十日

会場 小美玉市四季文化館

(二)器楽実技研修会 八月二十三日

会場 茨城大教育学部附属小

四 茨城県芸術祭小中学校合唱合奏大会(教育庁文化課主管)

(一)打合せ(研修センター) 十月二日

(二)中学校の部 十一月二十一日

(三)小学校の部 十一月二十二日

会場 県民文化センター

五 茨城県リコーダーコンテスト

フェスティバル 二月十六日

会場 明野公民館

英語
「コミュニケーションへの意欲と能力を高め、思いや考えを豊かに伝える力の育成」
部長 皆川 澄雄

本研究テーマのもと二年次となり、副題の「小・中学校の英語教育の滑らかな接続により、主體的な学びを育てる」に沿って、研究を推進した。

○主要事業

一 郡市部長、専門委員(小学校・中学校) 合同研修会

①五月三十日(火)

二 研究推進

ボイント

研究主題設定・組織づくり

前年度事業報告・決算報告

本年度事業計画・予算の審議

次年度に開催する研究協議会の役割分担、研究推進についての確認

研修1次期学習指導要領における特別活動の改訂のボイント

特別活動
「自主的・実践的な集団活動を通して、よりよい人間関係を築こうとする態度を育む特別活動の在り方」
部長 大高 姜子

一 郡市部長研修会

○第一回 五月二十四日

研究主題設定・組織づくり

前年度事業報告・決算報告

本年度事業計画・予算の審議

次年度に開催する研究協議会の役割分担、研究推進についての確認

研修1次期学習指導要領における特別活動の改訂のボイント

二 研究推進

ボイント

情報や情報手段を主体的に活用していくために必要な情報活用能力の育成

部長 志賀 正章

一 情報教育関連事業

○郡市部長研修会

五月二十五日 教育プラザ

○役員会 九月二十日 県庁

二 統計教育関連事業

○統計グラフコンクール実施説明会 六月八日 県庁

○統計グラフコンクール 六月十四日 県庁

地区審査会

中央地区 九月八日

県北地区 九月五日

県東地区 九月六日

県南地区 九月十二日

県西地区 九月五日

平成三十年度の研究協議会会場を担当する県南ブロックの守谷市、北相馬郡を中心に、開催に向けて協議し、準備を進めた。

また、研究協議会で提案発表を担当する小美玉市、古河市、北茨城市、鹿嶋市の各市において研究、準備を進めた。

三 事業報告・決算報告等(メールによる)

今年度は重点指定ではないので、業務の効率化の観点から、第二回郡市部長研修会を実施せず、メールによる報告にした。

四 視聴覚教育関連事業

○自作視聴覚教材等発表会

二月四日 水戸生涯学習センター

三 放送教育関連事業

○NHK杯全国中学校放送コンテスト茨城大会 六月二日

NHK水戸放送局

四 視聴覚教育関連事業

○自作視聴覚教材等発表会

二月四日 水戸生涯学習センター

三 放送教育関連事業

○NHK杯全国中学校放送コンテスト茨城大会 六月二日

NHK水戸放送局

四 視聴覚教育関連事業

○自作視聴覚教材等発表会

二月四日 水戸生涯学習センター

三 放送教育関連事業

○NHK杯全国中学校放送コンテスト茨城大会 六月二日

NHK水戸放送局

四 視聴覚教育関連事業

○自作視聴覚教材等発表会

二月四日 水戸生涯学習センター

三 放送教育関連事業

○NHK杯全国中学校放送コンテスト茨城大会 六月二日

NHK水戸放送局

四 視聴覚教育関連事業

○自作視聴覚教材等発表会

二月四日 水戸生涯学習センター

三 放送教育関連事業

○NHK杯全国中学校放送コンテスト茨城大会 六月二日

NHK水戸放送局

四 視聴覚教育関連事業

「小学校からの発達の段階に応じた体系的な基礎的・汎用的能力の育成を通して」をサブテーマとして、目的の達成を図るため以下の事業を実施し研究を進めた。

一 県キャリア教育研究発表会

十一月二十二日(木)に鉦田市立鉦田南中学校を会場に開催した。「社会的・職業的自立に必要な態度や能力の育成」課題解決に向けて学び合う教育活動を通して」をテーマに公開授業・研究発表が行われた。特に職場体験の報告会を、プレゼンテーションソフトを使って、生徒が主体となって発表し合い、活発な意見交換がなされた。各校で活用できる内容であり、大変有意義であった。

キャリア教育
「社会的・職業的自立に向けた体系的な基礎的・汎用的能力の育成を通して」をサブテーマとして、目的の達成を図るため以下の事業を実施し研究を進めた。

一 県キャリア教育研究発表会

十一月二十二日(木)に鉦田市立鉦田南中学校を会場に開催した。「社会的・職業的自立に必要な態度や能力の育成」課題解決に向けて学び合う教育活動を通して」をテーマに公開授業・研究発表が行われた。特に職場体験の報告会を、プレゼンテーションソフトを使って、生徒が主体となって発表し合い、活発な意見交換がなされた。各校で活用できる内容であり、大変有意義であった。

二 統計教育関連事業

○統計グラフコンクール実施説明会 六月八日 県庁

○統計グラフコンクール 六月十四日 県庁

地区審査会

中央地区 九月八日

県北地区 九月五日

県東地区 九月六日

県南地区 九月十二日

県西地区 九月五日

三 放送教育関連事業

○NHK杯全国中学校放送コンテスト茨城大会 六月二日

NHK水戸放送局

四 視聴覚教育関連事業

○自作視聴覚教材等発表会

二月四日 水戸生涯学習センター

三 放送教育関連事業

○NHK杯全国中学校放送コンテスト茨城大会 六月二日

NHK水戸放送局

四 視聴覚教育関連事業

○自作視聴覚教材等発表会

二月四日 水戸生涯学習センター

二 県版「中学生生活と進路」の編集

各地区の編集委員を中心に、茨城県版の最新データに更新した指導資料集を作成した。

三 調査研究

県内小・中学校のキャリア教育に係る取組について、また、県立高校・私立高校入学者の選抜に係る調査を行いまとめた。

学級経営

一人一人が輝く学級経営

部長 角谷 直人

本年度は、次の事業を実施した。

一 郡市部長会・研修会

(一)郡市部長会・研修会

第一回 五月三十日(火)

○会場 教育プラザいばらき

○協議内容

・平成二十九年組織の編成

・平成二十八年度事業等報告

・平成二十九年度茨城県学級経営研究部研究テーマ作成

・平成二十九年度事業計画案

・その他申し送り事項確認

第二回 二月二十六日(月)

○協議内容

・事業報告及び事業計画

・引継ぎ事項等について

※メールによる連絡、協議

(二)各郡市部研修会

二 次年度事業予定

○郡市部長会・研修会

○郡市部長会・研究推進委員会

同委員会

○各ブロック別研修会

○学級経営研究部研究発表会

○学級経営研究部研究紀要発刊

人権教育

人権尊重の精神の涵養を旨
指す人権教育の推進

部長 森田 聡

人権教育推進のために、本年度は、左記の事業を実施した。

一 第一回郡市部長研修会

(一)第一回郡市部長会・研修会

○期日 五月二十九日(月)

○会場 教育プラザいばらき

○内容

・研究主題・組織・研修計画

・研究協議会について

○講話

演題「社会に生きるLGBT」

講師 LGB T活動家

滑川 友理先生

(二)第二回郡市部長会・研修会

○期日 二月八日(木)

○会場 教育プラザいばらき

○内容

・事業報告及び次年度の計画

○講話

演題「茨城県における人権教育の現状」

講師 茨城県人権教育室

指導主事 西山 力先生

二 リーフレット作成について

○平成三十年発行に向けて

・第二回郡市部長会・研修会に

おいて事前案内

平成二十九年 研究大会

徳道

関東地区小学校道徳研究大会茨城大会

実行委員長 築瀬 浩幸

第五十一回関東地区小学校道徳教育研究大会が平成二十九年十一月十七日にひたちなか市立市毛小学校で開催された。今大会は「自立した人間として、他者と共によりよく生きようとする児童を育てる道徳教育」を考え、議論する道徳科を要として」を大会主題として、会場校の授業公開と県内各ブロックからの提案を中心に実施した。県内の各地区の道徳部長、推進委員の協力体制により大きな成果を収めることができたと考えている。

小学校では、次年度より道徳の時間が「特別の教科 道徳」として完全実施となる。発達段階に応じ、答えが一つでない道徳的な課題を児童が自分の問題として捉え、向き合う「考える道徳」「議論する道徳」へと転換が図られる。このような時期に開催する大会ということで、関係者の関心も高く、当日は関東圏内から六百名を超える参加者があった。

全体会では、本大会の基調提案、会場校の研究経過の発表を行い、その後、会場校の公開授業、課題別分科会を設定した。市毛小学校では、平成二十七年より「市毛小道徳科スタンダード」を作成し、問題解決的な指導展開、体験的な指導展開、自我関与とさせる指導展開、評価方法等の研究をしてきた。全十八学級での授業を公開し、多様な指導方法の工夫について多数の参加者が参観することができた。

六つの分科会では、全体計画や指導計画の推進、学校の教育活動や地域社会に開かれた道徳教育、さらに、魅力的な教材の活用、問題解決的・体験的な学習、「考える道徳」の時間と評価等を主題として関東各都県の提案をもとに協議を深め、相互の実践を踏まえた活発な交流をもつことができた。

メを留意いただき、「特別の教科 道徳」で大切なこととして、道徳的価値とは何か、道徳性を養うために配慮したいこと、道徳科の評価の例等を明確に講演していただいた。また、公開授業で見られた指導の工夫等についても当日のプレゼンに交えてくんだり具体的な分科会という内容で時間の経つのがあっという間であった。特に評価については、道徳科の授業における学習状況や道徳科の授業を積み重ねたことによる成長の様子を継続的に把握することであり、人格の基盤である「道徳性」を評価するのではないということが改めて確認できた。

また、前年度開催地東京都への感謝状授与、次年度開催地の千葉県への引継ぎも行われた。

最後に、本大会の開催に際しまして御支援・御協力をいただきました茨城県教育委員会、茨城県教育研究会、茨城県学校長会、ひたちなか市教育委員会、ひたちなか市校長会、ひたちなか市教育研究会、全国小学校道徳教育研究会、関東地区小学校道徳教育研究会、一般社団法人茨城県教育会、公益財団法人日本教育公務員弘済会茨城支部の皆様方に厚く感謝申し上げます。



児童の授業風景 (鹿嶋市立三笠小学校)

平成29年度 郡市支部の研究活動と 次年度の構想

水戸

日下部秀雄

「社会に開かれた教育課程」の実現のために、カリキュラム・マネジメントの充実や主体的・対話的で深い学びの視点を立った指導方法、学習評価の研究などに取り組み、成果を収めることができた。

次年度も「水戸スタイルの教育」の推進により、知性にとみ、心身ともに健全な風格をそなえた人間（水戸人）の形成に努めたい。

笠間

井坂 守

八月の研究発表会・一月の教育実践発表会における発表や各種の資料は、今後の指導につながるものとなった。また、元文部科学省教科調官の赤堀博行先生を招聘し、道徳科の実施に向けた授業改善と評価についての講演を聞き、教科化へ向けての理解を深めることができた。

次年度も、今年度の成果と課題を踏まえ事業の充実を図っていく

ひたちなか

廣瀬 佳久

本年度は、学校教育振興のためのキーワード「夢・感動・笑顔」の実現を目指して、夏季研究協議会、教育講演会、小中連携事業の推進、「授業公開協力者制度」を生かした授業研究・実技研修等に取り組んできた。

次年度は、これらの研修をさらに深め、新学習指導要領の実施に向け

常陸大宮

平塚 寿夫

た研修をより深めたい。

本市研究会では、活動方針の中に「主体的・対話的で深い学びの実現」を掲げ取り組んできた。研究会指定校による公開授業では、伝え合う活動の工夫等、対話的な活動を取り入れることにより、意欲的に学習に取り組む児童生徒が増えたなどの成果が表れている。

次年度も、新学習指導要領の趣旨に沿った活動の推進に努めたい。

那珂市

小室 信之

今年度、本市推進の小中一貫教育と新学習指導要領の改善の方向性を踏まえた研究を推進した。

八月の教育研究会では、六研究部から八つの研究実践発表があった。

十一月は、ばら野学園三校から、二カ年にわたる研究発表と授業公開があった。すばらしい実践発表に関わらず、参加人数が少ないことが課題として残った。

小美玉

羽鳥 文雄

本年度は、各研究部や専門部が研修会や授業研究会を行い、会員の資質向上に努めた。教研発表会、指定発表会（玉里小・堅倉幼）、教育論文募集等を行い、研究紀要や会報にまとめた。また、二回の教育講演会を開催した。

次年度は、各研究部の更なる充実と「小中一貫教育」の推進に努めたい。

東茨城

池田 晃一

各研究部で新学習指導要領を念頭に町教研と連携した研修会を開催したほか、八月には「主体的・対話的で深い学びを目指して」をテーマに城里町常北中を会場に研究発表会を開催した。熱心な協議を通して具体的な実践方法等について理解を深めることができた。

次年度も変化に応じた指導力の向上に努めていきたい。

那珂郡

原田 薫

会員の教師力を高めるため、各研究部を中心に実践的研究を深めてきた。教研集会、教養部研修会、村教育委員会との共催による教研指定発表会（照沼小）や茨大の生越達先生を講師に招いての教育講演会を開催し、充実した研修を行うことができた。

次年度は、活動の重点化を図り、各事業の一層の充実を努めたい。

久慈

野上 正人

本年度は「分かる授業づくり」「道徳教育、体育・健康教育の充実」「特色ある学校づくり」「郷土教育の充実」を研究の重点として取り組み、確実な成果を収めた。

教育研究集会、筑波大学との連携事業もスムーズに推進できた。

次年度は日本大との連携事業を加え、さらに充実したプログラムで会員の資質向上に努めたい。

日立

鈴木 克彦

「一人一人が未来を切り拓き、自立的に生き抜く力を育む教育の研究と実践」をテーマに、各教科・領域研究部を中心に新教育課程の理解啓発や学習指導法の工夫改善を目指す事業を通して、会員の資質向上に努めることができた。

次年度も、教育委員会、校長会と更なる連携を図りながら、本市の教育の一層の充実を図りたい。

常陸太田

飯田 広志

本市教育会は、市教委や市学校長会との連携のもと、「一人一人の個性を生かし、よさを認め、鍛え、励まし、夢や希望を育む教育を推進する」を目標に、指導方法の工夫改善等の実践研究に取り組んだ。

また、学校数の減少に伴う運営組織や教育研究発表会の在り方等についても検討し、より良い運営体制に向けての改善を図ってきた。

高萩

征矢 眞一

本年度は学校数が七校となり、会員数も減少した中で、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた研究を推進し、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に努め

ることを研究目標として、その具現化に全会員で取り組んできた。

次年度も各教科・領域研究部の事業、市教育委員会との共催事業により実践研究を進め、会員の資質向上に努めていきたい。

北茨城

櫻村 宣行

本年度も昨年度に引き続き「各学校の課題を明確にし、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開するための研究に努める」を研究目標に、二十二の研究部が積極的に研修に取り組んできた。また、高萩・北茨城市合同研究発表会では、若手を中心となり、十三分科会において、活発な討議を行った。今後も充実した活動としたい。

鹿嶋

大槻 啓子

「地域とともにすすめる特色ある学校づくり」をテーマとし、教職員の資質向上と未来を担う「鹿嶋っ子」の育成に取り組んできた。

八月と一月に教育研究発表会（個人・学校）を行い研究のまとめとして研究集録第二十二集を発刊した。次年度も新教育課程を視野に入れながら研究を進め、授業改善PJ等更なる充実を図りたい。

神栖

野口 桂子

本年度の主な取組は各研究部・教養部等における研修に加えて、①教

育研究発表会及び講演会②市統一スト③市教育会指定研究発表会（三校）④小学校陸上記録会⑤小中学校音楽発表会⑥文集「神栖の子」発行等である。次年度も活動内容の精選化・重点化を図るとともに神栖市授業スタイルの自校化と会員の資質向上に努めたい。

鉾田

大原 甚一

「主体的・対話的で深い学び」の獲得を目指し、本年度も市内半数の幼稚園・学校で授業を公開し、実態に応じた学習スタイルの構築・深化に努めてきた。そのような中、教育機器の積極的活用を切り口にした推進校の授業提案は今後につながる大きな一歩となった。

潮来

市川 隆男

「深い学び」の実現に向け、今後継続して授業改善に努めていく。

本会は、「笑顔」をスローガンに掲げ、教職員の資質向上と児童生徒の「生きる力」の育成を目指して研究・修養に励んだ。

特に、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けての授業改善や研究指定校の発表、幼保小中連携等による教育活動の実践で、大きな成果をみた。

次年度も、会員相互の資質向上、事業の充実を目指し努力したい。

行方

片岡 満

本年度の方針として「研究は広い視野に立ち、教育課題を的確に捉えてその解決を図るために推進する。」を第一の方針として掲げ、学力向上や幼・小・中連携の充実に向けた取組を実践してきた。また、市教育会研究指定校（北浦小学校）の研究発表会を実施した。

次年度は、今年度の成果と課題を踏まえ、取組の改善に努めたい。

土浦

廣原 高志

各研究部ごとに、本年度の研究の重点を踏まえ、具体的な研究目標と内容を設定し、研究活動を推進してきた。全員研究協議会では、三十二名の発表者を中心に、講師を招いての活発な研究協議が行われた。

次年度は、市の小中一貫教育の完全実施となるので、これまで以上の研究の充実を期待したい。

石岡

山田 典明

本年度は、本市独自の「ふるさと学習」やICT機器活用も織り交ぜながら、「主体的・対話的な学び」の実現に向け、各校で授業実践を重ねてきた。研究発表会、指定校研究発表会、教育論文発表会等の事業において、そこに絞った研究が多く発表された。

次年度は、学びの質を深めること

も視野に入れ、各校及び各研究部の研究活動の充実を図りたい。

龍ヶ崎

酒井 和美

本年度は、「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、各研究部で実践研究を進めてきた。夏の重点研究部発表会では講師を招いて活発な研究協議を行った。現在まよめの研究紀要を編集している。

来年度も、教職員の指導力向上を目指して、授業研究に力を入れるとともに、各事業の活性化を図っていきたい。

取手

柏 孝子

「知性に富み、心身ともに健全な児童生徒の育成」をテーマに研究活動を推進した。二十二研究部と八事業部で授業研究・実技研修・共同事業等を行った。中学校区ごとの小中連携では、社会に開かれた教育課程の実現に向けた教育活動の改善に取り組んだ。

次年度も、新教育課程の実践に向け、研究の充実を図りたい。

牛久

志賀 英人

本年度は、新学習指導要領「周知・徹底」期間として位置づけられている。授業研究を始め、「社会に開かれた教育課程」「主体的・対話的で深い学び」を意識した実践を心がけた。牛久市教育研究会は、市内各校の成果を共有する場となっている。

次年度は思い切った変革も視野に入れ、諸活動に取り組んでいきたい。

つくば

田村実枝子

社会力豊かな幼児・児童生徒の育成を目指し、幼小連携を図り、先進的な小中一貫教育を充実させ学びの連続性を保障するため、各学園・学校・園が創意を生かした特色ある教育活動を推進してきた。

二十四研究部による実践的な研修、夏季研究発表会、教育講演会、教育論文発表会等を通して、会員が相互に学び合うことができた。

守谷

笹本恵美子

「新しい時代に対応し、たくましく生きる力を育む教育」をテーマに研究実践を進めた。各研究部では、授業研究や実技研修、講師招聘の研修会等を実施した。秋には二指定校による研究発表会が行われ、研修を深めることができた。

今後も各中学校区ごとに、特色ある一貫教育の実践を推進し、更なる授業改善に繋げていきたい。

稲敷市

篠原 輝一

「生きる力のある園児・児童・生徒の育成」をテーマに研究実践に取り組んだ。全員研修会、研究委嘱校の研究発表会、教育論文表彰式での優秀論文発表等を通して会員の資質能力の向上を図った。レポートの

向上、論文応募数の増加等、成果を得ることができた。次年度は、主体的・対話的で深い学びについて実践研究を進めたい。

かずみがうら 市川 一典

「学習指導要領の趣旨を踏まえ、創意工夫を生かした特色ある教育課程の編成・実施・評価・改善の研究に努める」を研究目標とし、研究会、教育講演会、教育論文発表会、研究指定校発表会、各部会の研修会等を実施した。

次年度も自主的・実践的な研究活動を計画的・効率的に推進し、研究目標の具現化に努めたい。

こばみらい 富田 良一

昨年度に続き、「主体的・対話的で深い学び」を追究することを視点として活動してきた。十月には板橋小、谷原小で市指定研究発表会（ともに算数）を行った。学習への意欲を高めること、主体的に考えるための学びの場の設定など主題に迫る工夫が各所で見られた。次年度も会員の資質向上に向け研修の充実を図りたい。

稲敷郡 田島 峰子

本年度は、十月と十一月に阿見町立阿見第二小学校、美浦村立大谷小学校において、郡教育研究会委嘱の発表会を実施した。阿見第二小は、説明し伝え合うことを、大谷小は、

主体的・対話的な学びを重視した研究で、多くの会員にとつての充実した研修となった。次年度も、郡内で連携して会員の資質向上に取り組んでいく。

北相馬 仲田 義弘

本年度は、学習指導要領等の改訂を踏まえ、教職員の資質・能力の向上と児童生徒の「生きる力」の育成を目指した夏季研修会や研究発表会を開催し、会報「とね研だより」に研究したことをまとめた。

次年度は、本年度の活動の成果と課題を生かし、研修の充実を図っていききたい。

古河 落合 悟

新学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえ、「深い学び」の視点から学習内容の深い理解や動機付けにつなげた授業研究会が展開され、市内各校での授業改善が積極的に取り組まれた。児童生徒の「主体的な学び」では、各研究部での活動を中心に研究会や発表会が実施され有意義であった。今後も県教育の動向を踏まえ推進する。

結城市 瀧澤 晃

本研究会指定二年目となった上山川小学校と城西小学校で授業公開と研究発表を行った。両校とも「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け

た実践研究であり、今後の授業改善の方向性を示唆した報告であった。児童・生徒主体の「結城スタイル」の授業確立に向け、来年度も充実した活動を展開していきたい。

下妻 中條 美恵

本年度は、年度当初に市教育研究会総会を実施して全会員で本研究会のねらいを確認し、各研究部を中心に自主的・実践的な研究を推進した。指定研究では四校が授業公開と研究実践の成果を発表し、会員相互の資質向上を図った。

次年度も本年度の取組を生かし新たな教育課題への対応等、より一層の研修の充実を努めたい。

常総 岡野 克巳

本年度は、「夢をいただき未来を創るほっとな絆の常総教育」を推進するために、各研究部で活動してきた。特に防災教育については、中学校一斉防災学習を実施し児童生徒と教職員が実践的なスキルを身に付けることができた。

筑西 山口 忠

本年度は、各教育研究部の活動を中心に、市内の全会員が学校現場で実践的な研究を進めてきた。

また、四校による研究指定発表会、教育論文の募集、研究紀要の発行を行った。現在、本年度の成果と課題を踏まえて、「教師の働き方改革」の観点から、活動内容と活動計画の見直しを進めているところである。

坂東 小林 清

本年度は、新学習指導要領への対応を視野に入れながら、各研究部がねらいを明確にして実践研究に取り組んできた。市指定研究は、七郷小、逆井山小、岩井中の三校で実施した。研究の深まりが見られる実践発表で、多くの成果を得ることができた。

次年度も新たな教育課題への対応等、研修の充実を努めたい。

桜川 藤田 正美

本年度は、新学習指導要領の方向性を踏まえ、主体的・協働的な研究活動を推進した。授業力向上を目指す指定校授業研究会は、岩瀬小、樺穂小、岩瀬東中の三校で実施した。各研究部や研修部の事業は、年間計画に沿って推進し、各々に成果を上げることができた。

結城郡 飯泉知那美

今年度は、「自ら学び、豊かな心をもつ子どもを育てる」のテーマのもと、研究・実践をしてきた。成果と課題、研究指定校の実践や最優秀教育論文については、研究紀要「八千代の教育」にまとめて全会員に配付すると共に、実践報告会を開き、研修を行った。

次年度も、本年度の反省を生かし、活動の充実を図っていききたい。

猿島 中島 照雄

本年度は、学習指導要領の趣旨を踏まえ、児童生徒の学習意欲や「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の改善・充実、教職員の資質能力を目指し、各研究部で研修会、授業研究会や行事を実施してきた。

次年度は、本年度の成果と課題を踏まえ、創意と工夫を生かした猿島郡の教育を推していきたい。

茨大附属 神 守

本年度は、四附属校園の定例公開授業研究会に加え、関東地区五十七の学校園を迎え、関連茨城大会を開催、研究成果を発信することができた。

結城郡 飯泉知那美

次年度は、新学習指導要領への対応も視野に入れながら、大学や他附属及び公私立学校との連携を深め、各校園それぞれの特徴を生かして研究を充実させたい。

専門委員会 平成29年度の まとめ

組織活性化委員会 増田 年男

一 アンケートの実施

茨城県教育情報ネットワークのアンケート機能を活用して調査を行った。内容は、①少人数指導の充実について②「主体的・対話的で深い学び」について③カリキュラム・マネジメントについて④「特別な教科・道徳」について⑤「外国語活動」や小学校の「外国語科」についてである。集計及び考察の結果については、県教育研究会のHPで公開している。

二 課題検討委員会の実施

昨年度からの継続の委員の下、右記のアンケート結果を踏まえ、少人数指導の充実や県教育研究会の事業等についての課題検討と要望のまとめを行った。HPで公開している。

三 次年度の活動方針案の策定

県教育研究会の活動の活性化を

推進するために、組織構成の在り方について検討する。

会報・紀要委員会 川井 洋子

本年度も、三回の会報発行と研究紀要を編集し発行しました。会報・紀要委員会専用のメールボックスによる原稿集約も定着し、効率的に編集作業を進めることができました。

御多用の中、玉稿をお寄せくださいました諸先輩・研究会役員の皆様、各支部長及び各専門委員長の皆様をはじめ、会員の皆様により感謝申し上げます。

一 会報の発行

- (一) 第一七四号（七月十四日）
- 「活動方針・事業計画」
- (二) 第一七五号（十月六日）
- 「教育座談会」「提言」
- (三) 第一七六号（三月五日）
- 「本年度の事業のまとめ」
- 「県外派遣研修報告」

二 研究紀要の発刊

（三月九日予定）
教育論文優秀賞（全文）と
優良賞（概要）の掲載

学力調査委員会 皆川 澄雄

本年度も、確かな学力の定着・向上につながるよう、県教育委員

会との共催で「学力診断のためのテスト」を実施しました。見直し・工夫改善を加えながら実施しています。問題作成委員を県内より選出し、問題作成にあたりました。

一 趣旨

○学力の実態把握・定着・向上

二 対象学年：小三～中三

三 実施教科

○小三～小六：国・理・算・社
○中学：英・国・数・社・理

四 実施日

- ・中三：十一月七日（火）
- ・小三～小六：一月十一・十二日（木）（金）
- ・中一・中二：一月十一日（木）

五 テスト結果の集計・分析

- 分析システムの配信（県教委）
- ・一月中旬（中三は十一月）
- 集計結果の配信（県教委）
- ・二月上旬（中三は十二月）

教育論文委員会 廣瀬 佳久

第五十二回教育論文募集に取り組み、次の結果となりました。

一 応募総数 一九七点

個人研究 一八十点

共同研究 一七点

二 審査結果

○優秀賞 五点

（県知事賞）横田英一外全職員
（行方市立北浦中学校）

〔茨城県議会議長〕 平山栄治
〔水戸市立新荘小学校〕
〔県教育長賞〕 大塚正則
（牛久市立牛久第二小学校）

同 宗次直巳
（鹿嶋市立三笠小学校）

同 中村裕幸他全職員
（鉾田市立鉾田小学校）

○優良賞 二四点

○佳作 一八点

三 表彰式・発表会

一月三十日 県教育振興大会

四 教育論文集の刊行

教育論文 第五十二集

WEBページ運営委員会 陶 慶一

本年度は、WEBページの掲載内容の更新を各研究部長を中心に実施し、最新の情報への更新を図ることができました。また、研究部によっては、研究成果の掲載を図るなど、積極的な情報発信が見られるようになりました。

今後とも、WEBページの充実に向けてまいります。

一 教育プラザいばらきWEB

ページ管理委員会への参加

○第一回（六月）

・組織の編成、方針の確認

・WEBページ管理規則について等

二 茨城県教育研究会WEBペ

ジ運営委員会
○第一回（六月）
・WEBページの保守・管理等について

・平成二十九年度の活動計画について（掲載内容の更新等）

三 管理委員会との連携

へき地・小規模校運営委員会 若上 賀子

本委員会は、へき地・小規模の小さな小中学校のよさを活かした学校教育の充実・発展に向けた取組を行った。

一 郡市委員長研修会の開催

(一) 第一回 五月十八日

(二) 第二回 十二月十五日

二 小さな学校の教育研修会の開催

○茨城大学教育学部附属小学校
七月十四日

三 全国へき地教育研究連盟秋季総会・高知大会への参加

十月三十一日、十一月一二日

四 関東甲信越へき地教育研究協議会（群馬県）への参加

八月十日

五 全国へき地教育研究連盟推進協議会への参加

○茨城県の現状報告書提出
十一月三十日・十二月一日

六 関プロ代表者会議への参加

(一) 第一回 六月一・二日

(二) 第二回 二月二十六日

好文亭 一文芸欄



東海村立白方小学校 富田 恵子
雪とけて ドッジボールに さそふ子の
笑顔に負けて 今日も笛吹く

東海村立照沼小学校 関口 紀子
校庭に 輝く笑顔 子どもらの
撮るカメラも インスタ映え狙う

東海村立中丸小学校 秋元 良一
薄氷 映る子の顔 頼もしく

東海村立石神小学校 平井 剛
子供らの 笑顔を求めて 日々苦戦

東海村立舟石川小学校 沼田 真喜
寒い朝 はじける子らの 笑い声
やる気スイッチ 今日も入る

東海村立村松小学校 安 敦之
冴返る 月によるこび 六十年

東海村立東海中学校 河野 達也
新雪に 友の背追って 八の行列

東海村立東海南中学校 稲田 真吾
寒の内 成長見えた 立志式

鹿嶋市立中野東小学校 桂木 佐知子
一面の 雪に一筋 川流る
凍滝の 崩れ落ちたる 日和かな
冬晴れや 大縄跳びの 子らの声
梅一輪 窓辺でほころぶ 香りかな

初雪に 木々に白帽 ふんわりと
同 大崎 直寿

裸木の 透き間に見える 海光る
同 木嶋 剛

石岡市立小幡小学校 加藤 実咲
初雪に 心がおどる 子どもかな

同 井元 潤一
成人を 迎えし帰省 我が息子
祝いもらいて そそくき帰る

同 前田 好子
雪やみて 筑波の峰の 空青く
校庭に輝く 子らの笑顔よ

石岡市立恋瀬小学校 加藤 徹
夕暮れに 子の背を見送る 雪たるま

同 助川 真弓
いつの日も 明けぬ夜はなし 梅一輪

同 田口 湧介
ニリンソウ せわしい日々 楔打つ

結城市立絹川小学校 秋葉 光博
アルバムに 幾百の面輪 微笑みて
教への道は 半ばなりけり

結城市立山川小学校 松山 昌弘
早起きの 汗ばむ甲に 六花

同 上坂 仁志
節分の 鬼になりたい 今年こそ

結城市立結城西小学校 中村 敏広
田の書き順子どもに違々と指摘され

結城市立結城中学校 細谷 裕史
ドカ雪に 雪国の苦労 知る早朝
汗拭き思う 娘のしもやけ

同 石塚 和佳子
蔵手に 似たる波濤の 迫りきぬ
うなる波頭 色変えて引く

同 野村 武志
オチがない 話に感謝の 受験生

八千代町立西豊田小学校 渡邊 理恵子
雪景色 笑顔と校庭 きらりと光る

八千代町立安静小学校 石津 光彦
鮭を焼く 炭の力に 顔焼かれ

八千代町立中結城小学校 鈴木 賢司
日が経^たちて 吾子^を見上げる 雪たるま

八千代町立下結城小学校 大塚 瑞季
雪の朝 子らが頬を 赤く染め

八千代町立川西小学校 池田 由樹
クローバー
ひとつ摘まれて みな踏まれ

八千代町立東中学校 市村 文裕
教師とて
むずかる吾子に 手こずれり

八千代町立八千代第一中学校 木村 和樹
雪遊び はじける笑顔 弾む声



学校 東中 稲数
子 早 米川

◆編集後記◆

月日が経つのは早いもので、平成二十九年度も残すところ一か月となりました。今回の号は、今年度の最終号となりますので、各郡支部、各研究部の取組などのまとめとなるように編集しました。

今回の内容は「主體的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の改善・充実」というテーマのもと、特集として、「七十・五十周年記念・第六十九回茨城県教育振興大会」「本年度事業の反省」「県外教育事情調査報告」を掲載しました。また、「関プロ大会報告」「第五十二回教育論文優秀賞受賞のよるこび」も掲載しました。

今号が、これからの各学校における創意を活かした特色ある教育課程のよりよい実践につながれば幸いです。

会報発行にあたり、御多用の中原稿をお寄せいただきました皆様方に、心よりお礼を申し上げます。

第一七六号は、正副委員長と次の担当者が編集にあたりました。

- ◎藤枝 馨子 (水・常澄中)
- 栗本 祐輔 (水・内原中)
- 渡野 遼 昭 (水・河和田小)
- 水野 秀樹 (東・大洗小)
- 川島 麻美 (水・飯富小)
- 飯田 一成 (東・長岡小)
- 大和田 彩佳 (ひ・阿字ヶ浦中)